

自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむ児童の育成

－単元のゴールにつながる **Small Talk** の工夫を通して－

研究の概要

外国語科では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成すること」が目標として掲げられている。そこで本研究では、単元のゴールにつながる**Small Talk**を工夫する。**Small Talk**とは、担任とALTとの会話を児童が聞き取ったり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする対話活動である。本研究の**Small Talk**においては、単元のゴールで扱う言語材料を繰り返し使用し、ゴールにおいて児童が自信をもって話せるようにする。また、コミュニケーションを行う際に欠かせない対話を続けるための基本的な表現を交えながら相手の思いを受け止め、英語で自分の思いを伝え合う。このような言語活動を積み重ねていくことで、英語で伝え合うことを楽しむ児童の育成を目指す。

【キーワード】 **Small Talk** 自分の思い 伝え合うことを楽しむ 単元のゴール

I 主題設定の理由

今の日本は急激な少子高齢化による働き手の減少、地球温暖化、食の安全性、人権、学校や家庭、地域における教育などの様々な問題を抱えている。これから成人する子供たちは、多くの問題に積極的に向き合い、厳しい挑戦をしていかなければならない。

このような時代背景から、平成28年12月に示された『中央教育審議会答申』においては、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創って、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要」と提唱されている。様々な問題がある中で子供たちがたくましく生きていくためには、自分と違う価値観をもった人たちと積極的にコミュニケーションを図り、お互いを認め合いながら生きていくことが大切である。そのためコミュニケーションを図るための能力を向上させることは必要不可欠なことであると考えられる。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』における外国語科導入の趣旨として「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題になっている。」とある。

これを受け、外国語科の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す」と設定されている。さらに、外国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標には、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うことが挙げられている。また、『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』(文科省)には、「児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、その定着を図るために行うもの」として **Small Talk** が位置づけられている。

研究にあたり、4校でアンケート調査をした結果、85.7%の児童が英語は好きと答えている。また、英語で友達とやり取りすることが好きな児童は、88.9%である。英語を学ぶことは大切であると答えた児童は、98.9%と非常に高かった。この結果から、英語を学ぶことは大切だと考え、意欲的に英語に取り組んでいることが分かる。

しかし、実際の授業では、自信がなさそうに小さな声で発話していたり、他者とのやり取りに消極的だったりする様子が見られる。また、ジェスチャーをつけて話すことは、相手に分かりやすく伝えるために大切だと分かっているにもかかわらずできていないことが多い。大勢の友達の前で発表することが好きではないと 58.9%

の児童がアンケートに応えた。その理由としては、「間違えることがこわい」「はずかしい」等が多かった。英語を学ぶことに意欲はあるが、実際に自分のことを英語で発表する場面になると正しく英語で話したいという気持ちが強く、間違えることに不安を感じている。

そこで、本研究では児童が興味・関心をもって取り組むことのできるコミュニケーションの目的や場面、状況等を設定し、第1時において単元のゴールを児童に示し、児童がゴールに向かって意欲的に学んでいけるようにする。そして、単元のゴールで使う言語材料を交えたコミュニケーションの場面である **Small Talk** を位置付ける。その場面では、担任と ALT の身近な話題についての会話を聞き取ったり、その会話に児童が参加したりする。このような **Small Talk** を積み重ね、単元のゴールで使う表現の定着を図ることで、児童が自信をもって自分の思いを英語で表現することができるようにする。

さらに、コミュニケーションのポイント”Eye contact” “Clear voice” “Smile” “Reaction” “Gesture”を意識させたり、対話を続けるための基本的な表現“Hello.” “That’s good.” “Me too.”などを示したりして、楽しくコミュニケーションが行えるようにする。これらを意識して相手とコミュニケーションを図ることによって、相手の話を聞いて、相手の思いをしっかりと受け止めたり、安心して伝えたりすることができる。このような体験を積み重ねることで、児童はコミュニケーションを図る楽しさや達成感をもちながら、やり取りを続けることができるのではないかと考える。

以上のことから、**Small Talk** において、単元のゴールにつながる既習表現を繰り返し使用し、さらにコミュニケーションの基礎的な技能を身に付けることで、児童が自信をもって自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむようになると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

外国語科において、自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむ児童を育成するために、単元のゴールにつながる **Small Talk** を工夫することの有効性を明らかにする。

III 研究の見通し（研究の仮説）

外国語科において、コミュニケーションのポイントや対話を続けるための基本的な表現等を用いて、単元のゴールにつながる **Small Talk** を工夫すれば、児童が自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむようになるだろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 「Small Talk」とは

高学年の新教材で設定されている活動である。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5学年は指導者の話を聞くことを中心に、6年生ではペアで伝え合うことを中心に行う。

好きな食べ物やスポーツ、その理由、行事や長期休暇の思い出など、児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う活動である。その中で、既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、その定着を図るために行うものである。

イ 「自分の思い」とは

好きかどうかなど自分自身に関する事実のことである。誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する実際の出来事や気持ちなどを話すことで、「友だちのことを知りたい」「自分のことをわかってもらえた」という満足感を味わうことができる。

ウ 「伝え合うことを楽しむ」とは

尋ね方の表現、答えとなる自分の思いを英語でどのように言うかがわかり、英語でのやり取りが

成立することを実感することで学習への意欲が高まる状態のことである。

エ 「単元のゴール」とは

単元の学習を終えたときに目指す児童の具体的な姿、単元を通して児童に身に付けさせたい表現のことである。どのような場面で、どのような英語表現を用いるかがわかることである。

オ 「対話を続けるための基本的な表現」とは

文科省の研修ガイドブックでは、下記の6点を指導することが例示されている。

①対話の開始	対話の始めのあいさつ “Hi.” “Hello.” “How are you?”等
②繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること 相手“I went to Tokyo.” 自分“(You went to)Tokyo.”等
③確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと “Once more, please.”等
④ひと言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること “That’s good.” “Really?” “Me too.”等
⑤さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること 相手“I like fruits.” 自分“What fruits do you like?”等
⑥対話の終了	対話の終わりのあいさつ “See you.” “Bye.”など

(2) 基本的な単元構想

つかむ(第1時)	追究する(第2・3時)	まとめる(第4時)
1. Greeting& Warm up ①単元のゴールの確認 ②本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 2. Activity ①デモンストレーション ②新しい言語材料のインプット ③やり取り </div> 3. Looking Back ①代表児童のやり取り ②ふり返りカードの記入 ③あいさつ	1. Greeting& Warm up 2. Small Talk (教師—児童) ①本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 3. Activity ①デモンストレーション ②新しい言語材料のインプット ③やり取り </div> 4. Looking Back ①代表児童のやり取り ②ふり返りカードの記入 ③あいさつ	1. Greeting& Warm up 2. Small Talk ①本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 3. Activity ①デモンストレーション ②発表練習 ③発表と聞き取り </div> 4. Looking Back ①ふり返りカードの記入 ②あいさつ

(3) Small Talk を構成、実践するときの手立てや留意点

- ・日頃より児童の外国語科に関わる好きなこと・もの、得意なこと、ほしいもの、行ってみたい国などの実態把握に普段から努め、一人一人の多面的な理解に心がける。そして、児童が興味・関心のある身近な話題について Small Talk で扱い、自分の思いを楽しみながら伝え合えるようにする。
- ・前時、またはそれ以前に学習した既習表現を使って Small Talk を構成し、児童が既習内容を繰り返し使えるようにする。
- ・コミュニケーションを図る上で大切な5つのポイント “Eye contact” “Clear voice” “Smile”

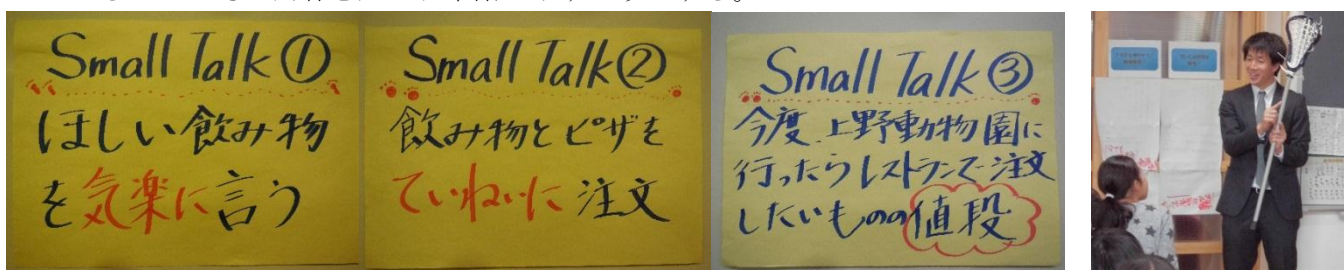


“Reaction” “Gesture” を示して、相手を意識したやり取りができるようにする。児童が常に意識できるように掲示物を準備する。

- T1 や T2 はジェスチャーを行いながら自分自身に関することを表情豊かにやり取りし、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるようにする。
- 対話を続けるための基本的な表現 (O.K. Good. Me too. Really? など) を意識的に多用し、自然なコミュニケーションが図られるようにする。児童が常に意識できるように掲示物を用意し、Reaction を促す。



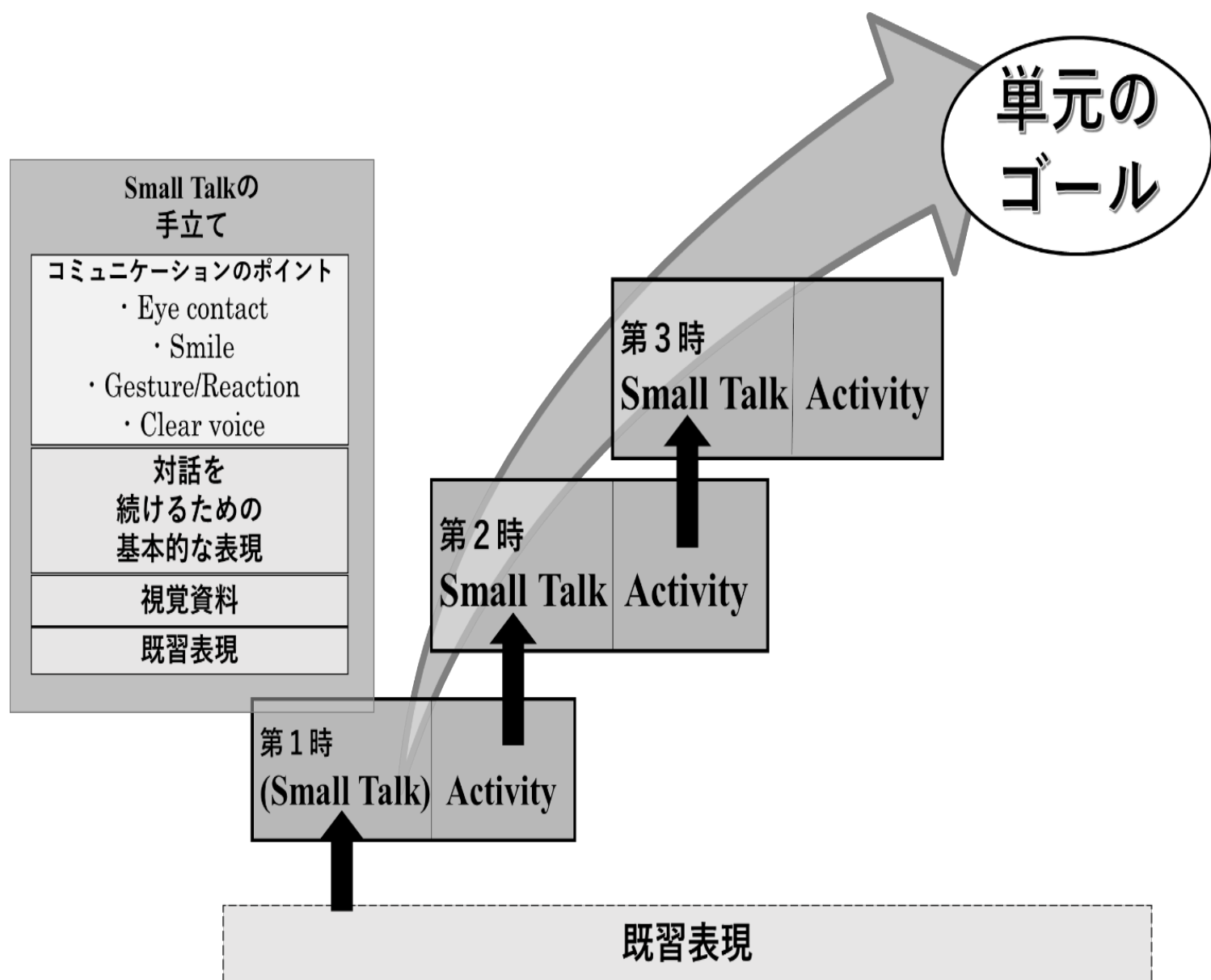
- 単元のゴールで使う表現を明確にして、第1時において単元のゴールで行う活動を伝え、児童が見通しをもって表現を意欲的に身に付けられるようにする。
- Small Talk の内容がどのように単元のゴールにつながっていくのかを児童に分かりやすくするためにその内容を短い日本語で示すようにする。



- 具体物や絵カード、パワーポイントなどの視覚資料を活用し、Small Talk の内容を分かりやすくし、興味・関心をもって最後まで聞けるようにする。
- 話していない児童も集中して聞けるように、全体に呼びかけたり全体で言わせたりして繰り返し発話できるようにする。
- 自分が本当に言いたいことが英語で言えない場合は日本語で言ってよいこととし、それを受けて ALT に英訳してもらう。

主題

自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむ児童の育成



児童の実態

英語に対する意欲は高い
友達のことを聞くのは楽しい
発表が苦手
発音に自信がない

教師・学校の実態

教師の英語力に個人差がある
日本人教師主導の英語授業でない
ALTとの打合せ時間の確保が難しい

2 研究の方法

(1) 実践計画

4月・5月	児童の実態把握 文献研究 研究主題 研究内容 事前調査
6月	主題計画検討会(19日)
7月	実践計画の検討
8月	第1次検討会の準備 指導案の作成 実践授業の準備
9月	第1次検討会(25日)
10月・11月	指導案の修正 実践授業① 倉澤泰子教諭(沼田北小学校)〔10月 2日(火)〕 単元名「She can run fast. He can jump high. できること」 実践授業② 友松真樹教諭(升形小学校)〔10月 17日(水)〕 単元名「Alphabet 文字遊びをしよう」 実践授業③ 角田順子教諭(川田小学校)〔10月 30日(火)〕 単元名「What would you like? ていねいに注文しよう」 実践授業④ 石田真規教諭(利根小学校)〔11月 13日(火)〕 単元名「She can run fast. He can jump high. できること」 検証(ふり返しカード、観察、授業の映像) 事後調査
12月	成果と課題についての検討 第2次検討会の準備
1月	第2次検討会(29日)
2月	紀要原稿作成・提出 成果発表・修了式(26日)

(2) 検証計画

i) 検証の観点

外国語科において、自分の思いを英語で伝え合うことを楽しむ児童を育成するために、単元のゴールにつながる Small Talk を工夫することは有効であったか。

ii) 方法

以下の方法で、児童の様子や変容を見取っていく。

- 外国語や授業に関するアンケート
- 撮影した外国語科の授業の映像
- 授業中や日常生活における教師の観察
- 授業のふり返しカードの分析

1 単元名 She can run fast. He can jump high. できること

2 児童の実態

本学級は、男子16名、女子16名の計32名である。話をよく聴いて授業に集中して取り組める児童がほとんどである。外国語科の時間が好きとアンケートに答えている児童がほとんどであり、意欲的に学んでいる。

【知識及び技能】

授業やいちごタイムで冊子「Letters and Sounds」を使い英語の音声や文字、語彙の習得をしている。ALTの発音を聞いて文字の音を発したり、絵と英語の単語を線でつないだり、単語をなぞってから写し書きをしたりしている。動きを表す語「ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well」については、児童が聞き慣れた語が多いが、英語で学習するのは初めてである。また、Can you-?の表現についても初めての学習である。第三者を表す語「she, he」については、第4学年で、4時間学習している。前単元「What do you have on (Monday)?」では、教科名や職業名についての単語が20個ほど出てきたが、キーワードゲーム・フェイントリピートゲームに楽しく取り組み、自信をもってほとんどの児童が発音できるようになった。書写 (calligraphy) や道徳 (moral education) などのなじみが少ない単語も自分の時間割に入れて進んで発音することができた。友達とのやり取りでは、対話が続けるための基本的な表現を進んで用いることができる児童もいるが、ジェスチャーをつけて表情豊かに行うことは難しいようである。

【思考力・判断力・表現力等】

担任とALTが授業でSmall Talkを行い、コミュニケーションをする姿を児童に見せている。その中で児童に既習表現を使って尋ね、答えることも行ってきている。覚えた基本的な表現や単語を自分で取捨選択して、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく表現できる児童もいる。前単元では、将来就きたい仕事に必要な教科を3つ、理由をはっきりさせて選ぶことができた。自分のことを伝えることに意欲的な姿がたくさん見られた。また、積極的に友達の時割を尋ね、友達の就きたい仕事についても想像を膨らませて答える様子が見られた。

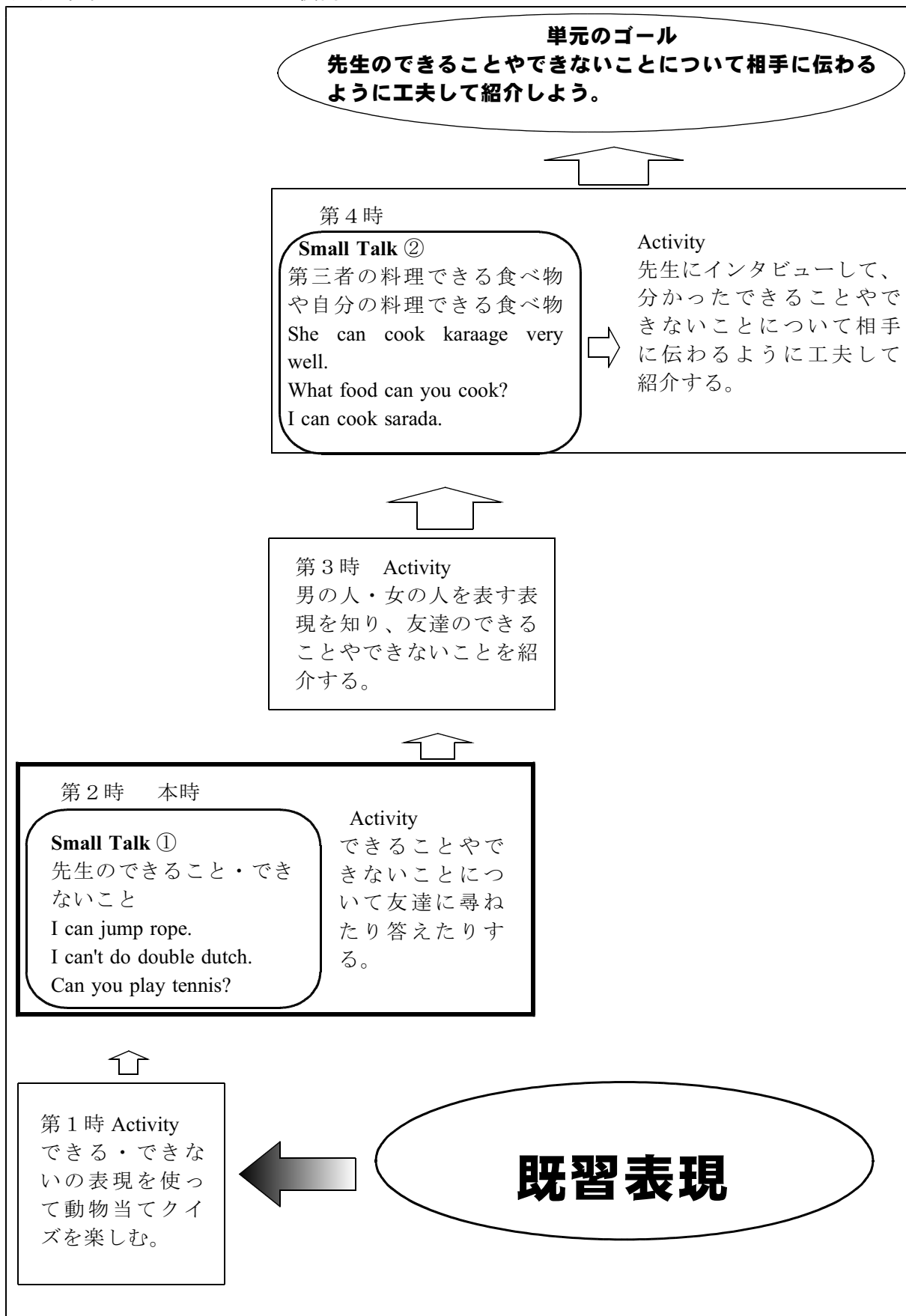
【学びに向かう力、人間性等】

アンケートに9割以上の児童が英語が好きと応えている。英語を学んでおくことは将来外国人とコミュニケーションを図る上で大切なことだと考えている児童が多く、学ぶ意欲につながっていると考えられる。英語で自分のことを伝えたり友達のことが分かったりするやり取りに楽しさを感じている児童がほとんどである。このように英語で伝え合うことに楽しさを感じているが、人前で自分のことについて英語で発表することは緊張して思うように英語で伝えられない児童が半数いる。コミュニケーションのポイント「Eye contact」「Clear voice」「Smile」「Reaction」「Gesture」の5つに気を付けながら会話をさせているが、相手を見ずに小さな声で一方向的に話してしまったり、相手が理解したかを気にせず話してしまったりと課題がある児童が数名いる。

単元の最後に、自分のことについて話せるコミュニケーションの場を設定するなど児童が興味関心をもって学べる単元構成を工夫する。また、コミュニケーションのポイントを提示して相手を意識したコミュニケーションが図られるようにしていきたい。

3 研究との関連

(1) 本単元でのSmall Talkの役割




本単元で扱う基本的な表現は「Can you~? Yes, I can. / No, I can't. She / He can~.」である。また動きを表す語として「ride a bicycle / unicycle, swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing

well」などを扱う。本単元の学習では自分に合った動きを表す言葉を選ばせることができ、ジェスチャーをつけやすく、児童にとって楽しく伝え合うことができると考えられる。Small Talkにおいて、T1 や T2 がジェスチャーも入れながら表情豊かにできることやできないことについて伝えることで、児童自身ができることやできないことを伝えたいという意欲を高められると考える。T1 や T2 のやり取りを聞かせるだけでなく、児童が自分自身に関することを発話する場面も設定し、既習表現を繰り返し使用しながら、その定着が図られるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい できることやできないことについて尋ねたり答えたりする。

(2) 展開

学習活動	時間 (分)	学習の支援及び留意事項等 評価項目 ☆満足な状況 【評価方法】	
		HRT(T1)	ALT(T2)
1 Greeting & Warm-up /挨拶とウォームアップ ・学習係の主導で簡単な挨拶をする。 ・天気、曜日、月日について答える。 ・Small Talk ①の実践	5 7	・英語で簡単な挨拶をする。 ・Let's Chant ②(オプション P.35)を聞き、楽しく学習に取り組む雰囲気づくりをする。 ・Small Talk を聞いたり T1 の質問に答えたりすることで既習表現を思い起こす。	
<p>T1: <i>Look! Look!</i> What's this? Ss: Nawatobi. T2: A jump rope. A jump rope.</p> <p>T1: みんなで言ってみますか? Ss: A jump rope.</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 対話を続けるための表現 </div> <p>T1: <i>That's right. O.K.</i> It's my jump rope. T2: Your jump rope. Cute. (縄跳びを見せながら)</p> <p>T1: <i>Oh, thank you.</i> Color is pink. I like pink. T2: <i>Really?</i> T1: <i>Yes, yes.</i> I can jump rope. T2: <i>Really?</i> You can jump rope. T1: <i>O.k.</i> T2: Can you show us? T1: <i>Yes. Look! :Look!</i> I try. Gesture T2: You can do it.</p> <p>T1: <i>Thank you.</i> (二重跳びをする) Ss: Oh! (拍手) T2: Nice jump rope! T1: <i>Thank you.</i> I like jump rope. I can jump rope well. T2: You can Nijyutobi. T1: But I can't do double dutch. Can you do double dutch ? T2: Double dutch? No, I can't. (絵カードを見せながらジェスチャーをつけて)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto; font-weight: bold; font-size: 1.2em;"> 視覚資料 </div> 			



Gesture

視覚資料

対話を続けるための表現

T2: But I can play tennis. Can you play tennis?
(ジェスチャーをつけて)

T1: *It's O.K.* T1: Yes, I can. A little.

T1: 陽太くん、Can you play baseball?
(ジェスチャーをつけて)

S1: Yes, I do..

T1: I can.....?

S1: Yes, I can

T1: What position?

T2: Pitcher? Catcher? First? Second?

S1: Short.

T1: *It's cool.* Can you swim?
(ジェスチャーをつけて)

S2: Yes, I do.

T1: I can.

Gesture

S2: Yes, I can.

T1: Can you play soccer?
(ジェスチャーをつけて)

S3: Yes, I do.

T2: Can you head? O.K?

S3: O.K.

対話を続けるための表現

T1: *Very good.* Can you run fast?

S4: Yes, I do.

T1: *It's good.* Can you play a musical instrument?

S5: Tuba.

T2: It's big.

T1: Heavy? (ジェスチャーをつけて)

S5: Heavy.

Can you play a musical instrument?

S6: Altfon.

T2: Good player.

T1: *Good job!* Can you play a musical instrument?

S7: Bass drums.

T2: I want to see. Show me.

T1: *Good. Very good.*

Gesture

2 Introduction & Warm-up/導入と練習

- めあてを確認し学習の見通しをもつ。
- 動作を表す言葉を復習する。
- Can you (play soccer)?

10

• T1、T2 のできることやできないことを確認しながら、めあてを提示する。

めあて：できることやできないことについて、尋ねたり答えたりしよう。

• 動きを表す語 (play the piano, play the recorder, ride a unicycle, do kendo,

• Can you (play soccer)? Yes, I can. / No, I can't. の表現を紹介する。

Yes, I can. / No, I can't.
の表現を知る。

3 Activity/活動

① Activity1 (P.37)

- ・ 隣同士でできることやできないことを尋ねたり答えたりする。

10

Gesture



② Activity2 (P.37)

- ・ 教科書の 10 個の動き (sing well, cook, swim, jump high, run fast, play soccer, play baseball, play volleyball, play kendama, play table tennis) について友達にできるかどうかを尋ね、括弧にサインをもらう。

10

do judo) を使ってキーワードゲーム・フェイントリピートゲームを行う。

- ・ 教科書に掲載された動きを表す言葉 (sing well, cook, swim, jump high, run fast) の中から 3 つ選ばせ、予想も記入させる。
- ・ T2 とデモンストレーションをする。

・ ポインティングゲームを行い、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しめるようにする。

・ 発音が分からない児童に助言する。・ 児童の発表を認め、賞賛する。

T1: Can you sing well?

T2: Yes, I can.

T1: Me, too. Can you run fast?

T2: No, I can't.

T1: Me, too. It's O.K. Can you cook?

T2: Yes, I can.

T1: Me, too. Good.

- ・ Activity1 の活動後、結果を数名に発表させる。
- ・ 途中でコミュニケーションのポイントや Can you~? Yes, I can. No, I can't. の表現を確認し、より積極的にやり取りができるようにする。
- ・ Activity2 の活動後、友だちのできることやできないことを知っての感想を発表させる。

Smile



予想される児童の姿と支援

ア 友だちにジェスチャーをつけて尋ねたり答えたりしている。

→ 賞賛し、Me, too. O.K. Good. などの言葉でやり取りをつなげるようにする。

イ うまく言えなかったり、相手を見つけられなかったりしている。

→ 尋ねる言葉を教えたり、あいている友だちと話すように促したりする。

		☆できることやできないことについて尋ねたり答えた	
4 Looking Back/振り返り			
<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに自己評価とめあてに沿った感想を書く。 感想を発表する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> めあてと児童の振り返りをつなぎ、本時の達成感をもたせ、次時の活動への意欲がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の頑張りを十分に認め、賞賛する。

5 実践授業の結果と考察

(1) 授業の振り返りカードから

本単元のゴールでは、先生方にインタビューしたできることやできないことについて紹介する発表の場が設定されているので、第2時の Small Talk では、担任や ALT のできることやできないことについてジェスチャーをつけて紹介した。児童にとって Small Talk の内容が分かりやすく、興味・関心をもって聞く様子が見られ、第2時 Small talk の感想から楽しく内容も聞き取れたことが分かる。第1時に学んだ I can/can't~.の既習表現を想起できる、Small talk を構成したが、未習の表現「Can you play~? Yes, I can.」が入っていたため、児童は Yes, I do.の表現で答えていた。児童の様子から何をどう答えればよいのか戸惑う様子も見られた。既習表現が使えるやり取りを構成し、児童が既習表現を繰り返し発話できるようにして、学習した表現が使えたという自信につながる大切である。また、自分のできることを話す児童が限られてしまった。よって、スポーツに内容をしばったり、全体で発音できるように呼びかけたりするなどして繰り返し発音できる機会を多

第2時 Small Talk の感想(実践授業)

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 楽し(笑)で楽しくなりましたよ。おかげです。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 分かりやすくジェスチャーをしていて楽しかったです。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 いろいろと話すことがあったので楽しかったです。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 他のお客さんのことを知ることができました。

第4時 Small Talk と 単元ゴールの感想

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 先生たちが笑顔で聞きやすい声で話したのでよかったです。

感想 授業について
 今日はペアの人と先生のできることをいえたし、自分のできることもいえたのでよかった。先生方のできることが分かったのよかったです。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 料理の作り方がよく分かって、自分も作ることができました。

感想 授業について
 しっかりとみんなの話を話せたし、友だちの「Really?」などいえるようになったよ。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
 先生たちが分かりやすく、大きな声をつけてくわい見本をして、自分もできるようになりました。

感想 授業について
 友達にたくさん話せることが楽しかったです。ジェスチャーやリアクションをやることを忘れてしまったので、今度は忘れずにしようと思いました。

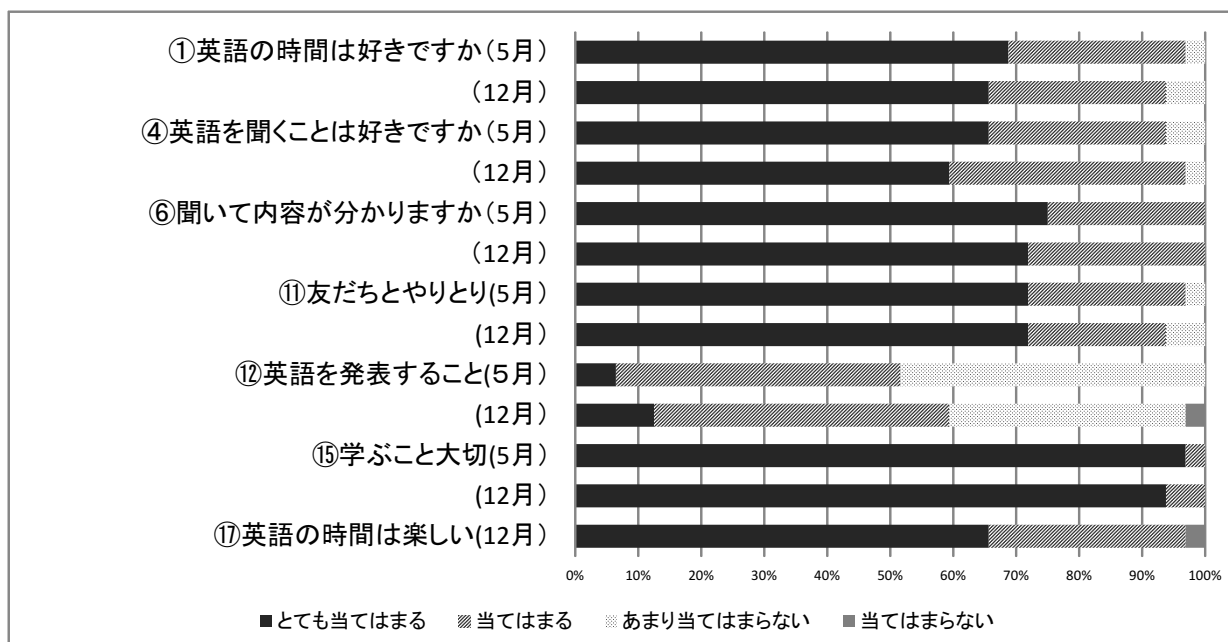
感想 Small Talk (スモールトーク) について
 ジェスチャーと先生の話が、よく分かって、自分も話せるようになったよ。

感想 授業について
 できること、できないことと、分からないことについて、先生に質問することができました。先生は優しく話を聞いてくれました。よかったです。次の英語でも楽しもうね。自分も手を挙げてたいです。先生もよく聞いてくれます。

くし、単元のゴールに向けて、表現の定着を図っていく必要があった。

第4時 Small talk の感想「先生たちが笑顔で聞きやすい声で話していたので、まねしたい。」「復習になった。」などから単元のゴールにつながる Small talk の工夫が行えたといえる。先生方のできることやできないことをペアの友達と分担しながら、笑顔で生き生きと発表する姿も多く見られた。単元最後の感想には、「みんなの前で話せたし、友達に Really ? など言えてよかった。」「次もがんばりたい。」などがあり、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとしていることが分かる。

(2) 外国語科に関するアンケートから



英語の時間が好きな理由 (12月)		
<ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流・会話が楽しい。・相手に伝わると嬉しい。・ジェスチャーが楽しい。 ・楽しく新しいことが覚えられる。・英語を話すと楽しい。・分かりやすく教えてくれる。 ・単元のゴールに向かって学習して、いろいろな物の言い方などを英語で表すことが楽しい。 ・発表するといいいところが言ってもらえる。 ・楽しく笑顔で勉強して、自分の意見を言うのが楽しい。 		
聞くことではどんな学習が好きか (複数回答可)	5月(人)	12月(人)
英語の発音を聞くこと	17	19 ↑
先生たちの会話を聞くこと	22	24 ↑
いろいろな国の言葉を聞くこと	21	23 ↑
友達の気分や好きなことを聞くこと	30	27
計	90	93 ↑

5月と12月に実施したアンケート結果を比較したところ、「英語を聞くことは好きですか」では、「とても好き・好き」と回答した児童が増えた。また、「聞くことではどんな学習が好きか」では、英語の発音や先生たちの会話、いろいろな言葉を聞くことを回答した児童が増えた。「ALTや担任の英語を聞いて内容が分かるか」では、「よく分かる・大体分かる」と全員の児童が回答している。さらに、「英語の時間は楽しいか」では32人中31名が「とても楽しい・楽しい」と答えている。その理由は「先生たちが英語をしゃべって先生の分からないことが少しでもわかって交流タイムも楽しい」「先生方のスモールトークでジェスチャーをしてくれたりいろいろな人と英語で交流できる」「自分が思ったことを英語で表現できる」「いろいろな友達とコミュニケーションを取れる」と相手のことも自分のことも分かってもらえることに楽しさを感じている。

「英語を発表することは好きか」では、「とても好き・好き」と回答した児童の合計が増えた。その理由に「単元のゴールに向かって学習して、いろいろな物の言い方などを英語で表すことが楽しい」とある。第1時で単元のゴールを示し、ゴールで扱う基本的な表現を繰り返し使用できるようにしたことで、基本的な表現が定着し、自信をもって英語で自分のことを発表できる児童が増えたと考える。

「英語の時間は好きですか」の問いでは、「とても好き・好き」と回答した児童は、減った。「あまり好きではない」と回答した児童の理由は、「あまりしゃべれないから」であった。学習する単語や基本的な表現が増え、発音することに難しさを感じているためと考える。好きな児童の理由は「楽しく新しいことが覚えられる」「英語を話す楽しい」「相手に伝わると嬉しい」「楽しく笑顔で勉強して、自分の意見を言う楽しい」など多数ある。Small talkにおいて繰り返し既習表現を使用できる内容を工夫し、楽しく聞いたり会話に参加したりして、語句や基礎的な表現の定着を図ることの大切さを実感した。今後も、自分の思いを児童が伝えられたという満足感をもてる外国語科の授業の実践に努めていきたい。

「英語の時間は好きですか」の問いでは、「とても好き・好き」と回答した児童は、減った。「あまり好きではない」と回答した児童の理由は、「あまりしゃべれないから」であった。学習する単語や基本的な表現が増え、発音することに難しさを感じているためと考える。好きな児童の理由は「楽しく新しいことが覚えられる」「英語を話す楽しい」「相手に伝わると嬉しい」「楽しく笑顔で勉強して、自分の意見を言う楽しい」など多数ある。Small talkにおいて繰り返し既習表現を使用できる内容を工夫し、楽しく聞いたり会話に参加したりして、語句や基礎的な表現の定着を図ることの大切さを実感した。今後も、自分の思いを児童が伝えられたという満足感をもてる外国語科の授業の実践に努めていきたい。

(3) 考察

- ・未習の表現「Can you play~? Yes, I can.」を使っの Small Talk だったために、前時で学習した I can~. / I can't~.の表現を使っの Small Talk にならず、児童は Yes, I do.の表現で答えていた。児童の様子から何をどう答えればよいのか戸惑う様子も見られた。既習表現が使えるやり取りを構成し児童が既習表現を繰り返し発話できるようにする。そして学習した表現が使えたという自信につながるようにする。

⑦英語の時間は、楽しいですか。

とても楽しい 楽しい あまり楽しくない 楽しくない

りゆう
先生たちが英語をしゃべって先生の分からないことが、少しでもわかって、こうりゆうタイムもたのしいから。

とても楽しい 楽しい あまり楽しくない 楽しくない

りゆう
先生方のスモールトークでジェスチャーをしてくれたり、いろいろな人と英語で交流できる。キーボードゲームなどで単語が分かるから。

とても楽しい 楽しい あまり楽しくない 楽しくない

りゆう
自分が思ったことを英語で表現できるし、いろいろな友達とコミュニケーションを取れるし、相手のことも自分のことも分かってもらえるから。

- 本単元ではたくさんの動詞が扱われるので、本時の **Small Talk** では前時で学習したできるスポーツに表現を絞って、児童が迷わず発音できるようにする。
- T1 の担任と児童という 1 対 1 の **Small Talk** であったので、その他の児童は発話する機会が少なかった。クラス全体で尋ねさせたり対話を続けるための表現を言わせたりと発話を繰り返し行えるようにする。
- 本時のふり返りは、めあてを想起させながら行う。学習した表現が確実に身に付けられたかをふり返らせ、次時の **Small Talk** につながっていくようにする。
- 『研修ガイドブック』（文科省）を参考にして、**Small Talk** を構成した。ガイドブックでは、本単元の **Small Talk** の例として "I can play badminton very well." が掲載されているが、担任の実際にできること "I can jump rope." に 変えて、**Small Talk** を構成した。担任が自分の実際のことを発話して **ALT** や児童とのコミュニケーションを楽しむことを大切にしたい。その際、まだ聞き慣れていない単語を扱う場合もあるが、写真や実物を見せたりジェスチャーをつけたりして児童にとって分かりやすい最後まで興味・関心をもって参加できる **Small Talk** になるようにする。

1 単元名 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう

2 児童の実態

本学級は、男子12名、女子8名の計20名である。

Small Talk では担任と ALT でやり取りをする様子を児童に見せた後、数名の児童に質問をして答えさせてきた。それらのやり取りの中で必要に応じて対話を続けるための基本的な表現を用いたり、ジェスチャーをつけたりして表情豊かにコミュニケーションを行うために、コミュニケーションのポイント“Eye contact”“Clear voice”“Smile”“Reaction”“Gesture”の5つに気を付けながら会話を行えるようにしてきた。

【知識及び技能】

昨年度までの外国語活動の中で帯活動としてローマ字の読み方を学習してきた。今年度からは1単元の中で3文字を1セットとしてアルファベットの名前と発音を練習し、学習した文字をつなげた単語を発音する練習を続けている。単元の後半では、ワークシートを用いてアルファベットや単語を書く練習にも取り組んでいる。これらの学習に対する児童の取組状況は個人差があり、積極的に発音を推測して発言する児童が数名いる一方で、発音に自信がなくてはっきりと声に出せない児童も多く見られる。ワークシートに自分の名前をローマ字で書くことは、ほとんどの児童ができるようになってきた。

'What day is it?' 'How is the wether?' 'How are you?' といったあいさつは毎時間の授業のはじめだけでなく、朝の会で日直が尋ねるなど繰り返し練習して定着を図っているが、質問の順番を変えても気付かないことや、曜日をすぐに答えられないこともあり、英語表現は授業の中だけで使うものと感じている傾向があると思われる。

【思考力・判断力・表現力等】

アンケート結果から英語を聞き取れないと感じている児童がいることが分かった。新しく学習する単語や表現がすぐにおぼえられない児童もいるため、練習を丁寧に行うように心がけている。ALT が文字指導の中で未習の単語を写真等で紹介することもあるが、積極的に推測して答えようとする児童は少ない。また、ALT が日本語に堪能なため、日本語で説明する部分を聞き取っている児童もいる。

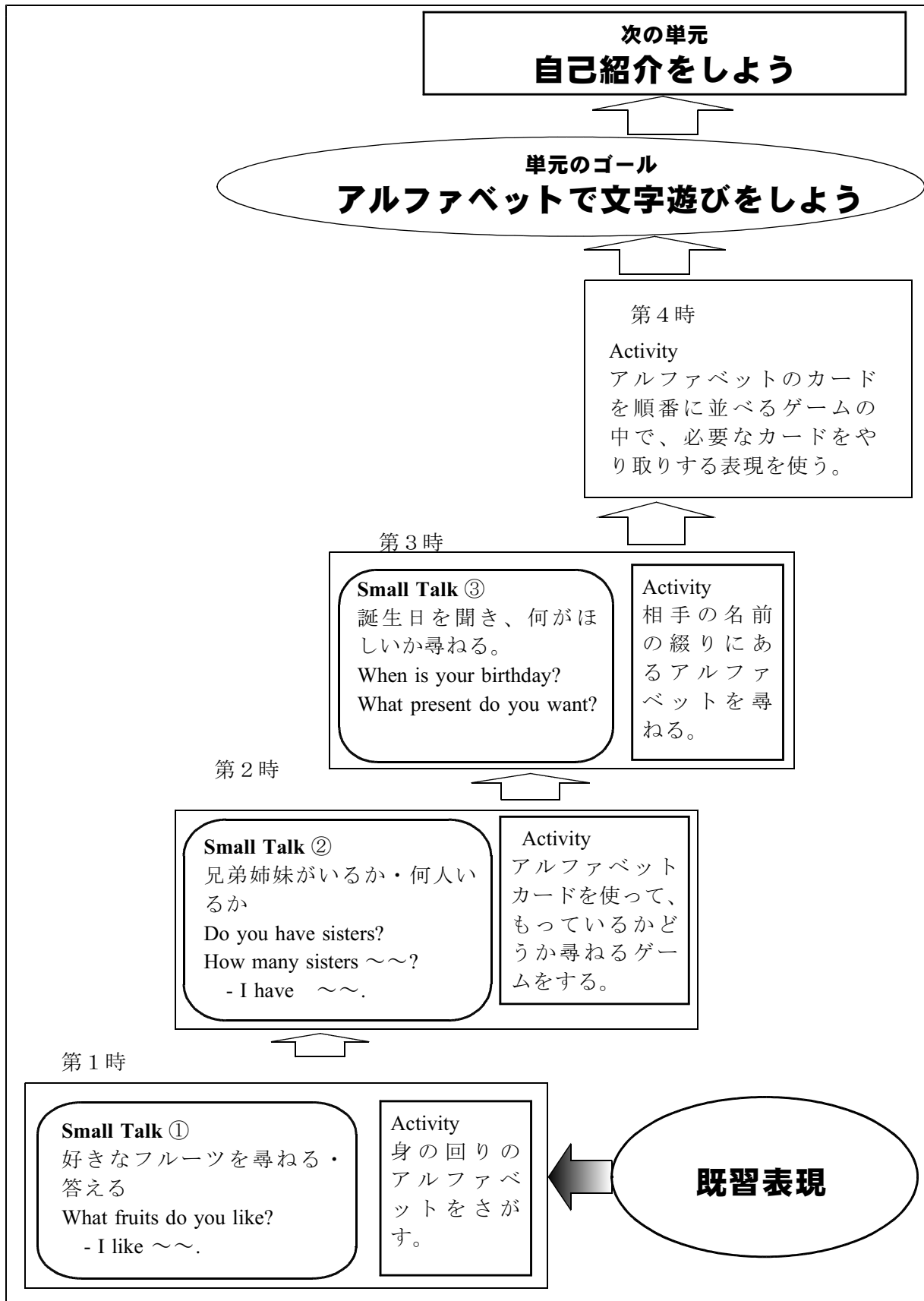
Small Talk では既習の表現を中心としているが、自分のことや身の回りのことを話題としていくため未知の単語を扱うことも生じる。その際には写真等の資料やジェスチャーなどで補足して児童の理解と推測を促すと共に、身近ではない単語は日本語のまま取り入れるなど、児童の負担を減らしつつ思いを伝える姿勢の大切さを感じ取らせていきたい。

【学びに向かう力、人間性等】

ほとんどの児童が英語を学ぶことを大切と考えており、英語を使うことに意義を感じていると言える。それに対し、外国語科の時間を好きと答えている児童は7割程度にとどまり、「とても好き」と回答した児童はその理由として、英語を身に付けることの楽しさを挙げている一方、「好き」と回答した児童の多くは、カードなどを使ったゲームが楽しかったことを理由としている。低学年の時に比べてゲーム活動が少ないと感じている児童は「あまり好きでない」と回答している傾向がある。簡単なゲーム活動を交えて英語の表現を楽しみながら身に付けさせていく活動と共に、友達同士のやり取りの中でお互いの理解を深められるという経験を増やしていくことで外国語を学ぶ楽しさや意義を感じられるようにしていきたい。

3 研究との関連

(1) 本単元でのSmall Talkの役割





本単元では既習表現である“How many ~ do you have?” “Do you have ~.” “I want ~.”などを使いながら、アルファベットの大文字と小文字について学ぶことをねらいとしている。そのため、本単元単独では毎時間のActivityを次の学習のSmall Talkとして扱っていてもゴールの姿を示しにくい。そこで、次の単元「自己紹介をしよう」が2時間の単元であることを踏まえ、本単元はそこでの自己紹介に使える表現を計画的に扱っていくことにした。

Activityの中では、アルファベットカードについてのやり取りであるが、Small Talkでは担任やALTが写真やジェスチャーなどを交えて、好きなものや誕生日などを尋ねるやり取りを聞かせることで、児童自身が自分のことを伝えたいという意欲を高められると考える。T1やT2のやり取りを聞かせるだけでなく、児童が自分自身に関することを言える場面も作りながら、既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、その定着が図られるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい 既習表現を使ってアルファベットの文字数を尋ねたり答えたりする。

(2) 展開

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項等	
		評価項目 ☆満足な状況 【評価方法】	
		HRT (T 1)	ALT (T 2)
1 Greeting&Warm-up／あいさつとウォームアップ ・日直が前に出て、児童が気分、曜日、天気などを尋ねる。	5	・気分、天気、曜日、月名のカードを黒板に掲示しておく。 ・2人の日直に気分を聞いたら、日直がクラスの児童に気分を尋ね、それぞれが答える。気分以外の質問に日直が答えたら、クラスの児童が一斉に繰り返す。 ・単元のゴールは掲示しておく。	
2 SmallTalk③の実践 	5	・Topic となる月名のカードを黒板に掲示しておき、授業開始までの時間を使って練習しておく。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>T1: Hello. My birthday is in May. T2: Oh, you, May. T1: I want a new bike. T2: Oh, bike nice! (自転車の写真を示しながら)</p> <p style="text-align: center;">視覚資料</p> <p style="text-align: center;">繰り返し</p> <p>T1: ダマニ先生, When is your birthday ? T2: My birthday is in January. T1: <i>January!</i> Huum.</p>  </div>			

T1: では皆さん、When is your birthday? S1, when is your birthday?

S1: March.

T1: Oh, *your birthday is in March.*

S1: (うなずく)

T1: S2, when is your birthday?

S2: August.

T1: *August.* O.K.

T1: S3, when is your birthday?

S3: November.

T1: Ah, *November. Me too?* (クラス全体に問いかける)

(4名がだまって挙手)

T1: S4, when is your birthday?

S4: February.

T1: *February. Me too? Me too?* (2名がだまって挙手)

T1: O.K. My birthday is in May. I want a new bike.

T2, what present do you want?

T2: I want a house. (両腕で屋根の形を示しながら)

T1: *Oh! Nice!*

T1: What present do you want? (クラス全体に問いかける)

T1: S5, what present do you want?

S5: (無言)

T1: Present?

T2: I don't know?

T1: Nothing. Nothing だよな?

S5: (うなずく)

T1: No present. O.K.

T1: S6, what present do you want?

S6: (小さな声でつぶやくが聞き取れない)

T1: いいんだよ。好きなもので。

S6: (小さな声でつぶやくが聞き取れない)

T1: What present?

S6: (無言)

T1: I don't know?

S6: (首をかしげる)

T1: I don't know? 決まらない?

S6: (うなずく)

T1: I don't know. *It's O.K.*

T1: Uum, だれか? Any volunteer? Challenger?

T1: S7, what present do you want?

S7: (〇〇の) ライブチケット

T1: ああ、ライブチケット。Ticket. Nice! いいねえ。

T1: “Me too.” っていない? 嵐のライブチケット。

(児童から笑い)

T1: TWICE って言ったの? ごめん。TWICE. “Me too.” はいない? ああ、いたいた O.K.

繰り返し



対話を続けるための表現

Gesture

対話を続けるための表現

対話を続けるための表現

T1: S8, what present do you want?
 S8: I want cat food.
 T1: Oh!! Cat food. *Do you have cats?* ネコ飼ってる? It's good. O.K.

さらに質問

T1: S9, what present do you want?
 S9: (笑っている)
 T2: A notebook computer.
 T1: Computer. Uum! Me too. っていう人?
 T2: (挙手して) I want.
 T1: 先生も、Me, too.
 T1: Now, it's all. Today's Small Talk is birthday, and "what present do you want?".
 今日の話題、わかりましたか?
 Ss: はい。

<p>3 Letters and Sounds [X , I]の発音とそれを使った単語の読みを知る。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ALT の発音を聞いて発音練習するように促す。 [X , I]の発音について説明する。 [X , I]を使った単語の読みを質問する。		
<p>4 Introduction&Warm-up/導入と練習 ・アルファベットかた (小文字) を行う。 ① 4人グループをつくり、二組のカードを机の上に並べる。 ② 児童 What letters do you want? 教師 I want 's'. ③ 時間になったら終了し、それぞれ取れたカードの数を確認する。</p> 	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて：自分の名前に使われている文字について聞いたり答えたりしよう </div> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を想起させ、本時めあてを提示する。 『Next, the Alphabet karuta. Let's play karuta!』 前時と同様の活動を行い、文字に慣れさせる。 <ul style="list-style-type: none"> カードを取りに来させ、読み上げる。 カードが取れない児童や、間違えたカードを取ってしまった児童に声をかける。 		
<p>5 Activity/活動 ・名前にあるアルファベットについて聞き合う。 ① デモンストレーションを見る。</p>	15	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> Hello. Do you have 'p'? </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> Hello. No, sorry. Do you have 'm'? </td> </tr> </table>	Hello. Do you have 'p'?	Hello. No, sorry. Do you have 'm'?
Hello. Do you have 'p'?	Hello. No, sorry. Do you have 'm'?			



②説明を聞く。

③表現の練習を行う。

④活動する。

- ・どの文字から質問してもよい。同じ文字を質問できるのは1人だけ。相手の名前にある文字数が自分の得点になる。

⑤まとめ



- ・2、3組の児童にやり取りを発表させる。

6 Looking Back／ふり返り

- ・ふり返りカードを記入する
- ・あいさつ

Yes, I do.

I have three **m**'s.

Thank you.

How many **m**'s do you have?

Oh, you have three **m**'s.

Thank you. Bye.

- ・発話ごとにどんなやり取りをしたか確認する。
- ・やり取りの型は役割ごとに分けて日本語で書いたカードを掲示する。
- ・次のように数回に分けて英語の練習量を確保する。

① ALT に対して質問する。⇔ ALT が答える。

② 右列の児童がとなりの児童に質問する。⇔左列の児童が自分の名前について答える。

③ 男子が質問する。⇔女子が答える。

- ・「相手意識を高めるポイント」

“Eye contact” “Clear voice” “Smile” を心がけるように促す。

- ・時間になったら児童を席に戻らせ、獲得ポイントを確認する。

- ・聞いている児童には発表の仕方のよかったところを見つけるように促す。

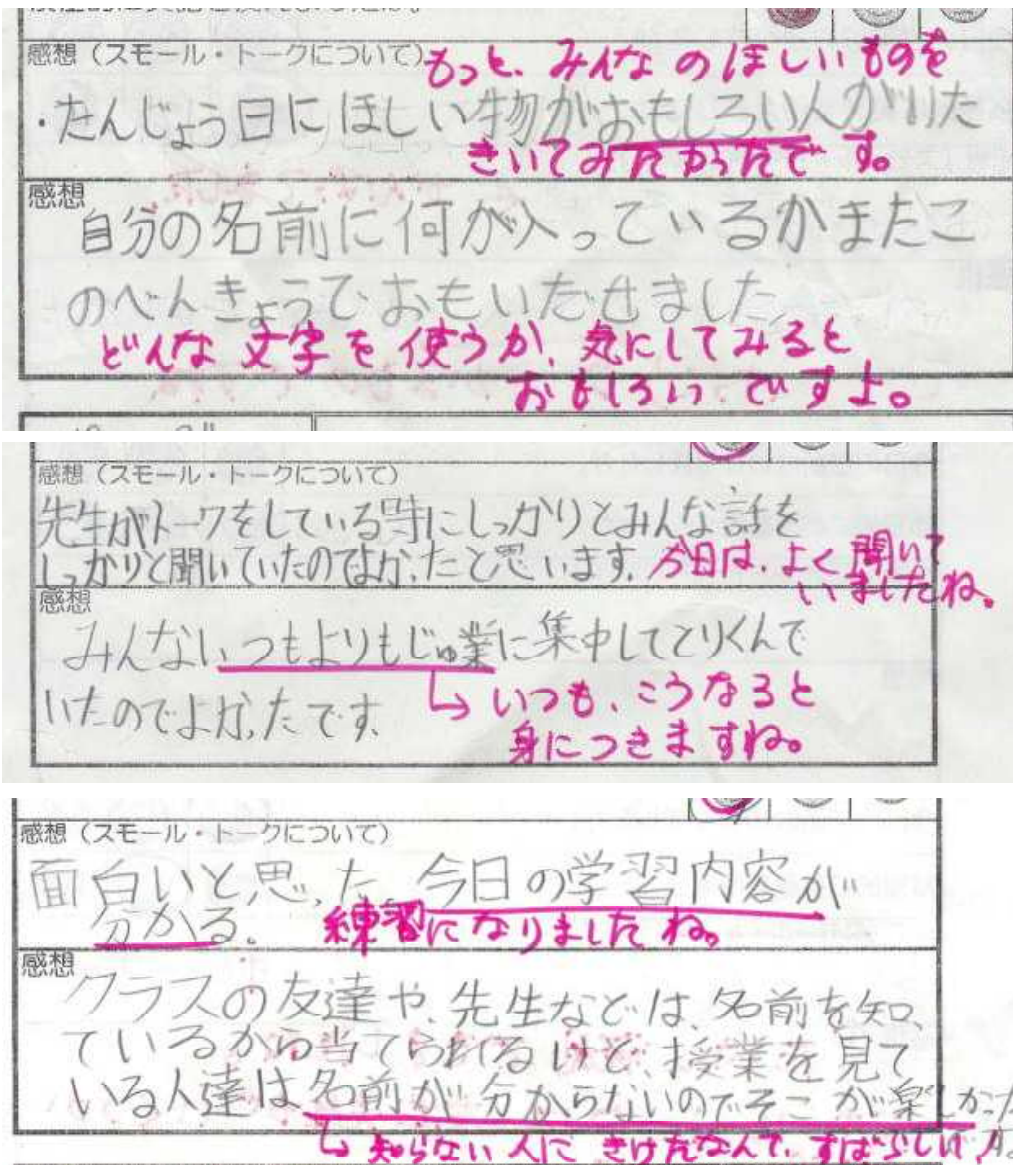


- ・本時のめあてを確認し、ふり返りカードに感想を書かせる。

5

5 実践授業の結果と考察

(1) 授業の振り返りカードから



練習のためにカードを使った活動があったこともあり、授業に対する満足度は全体的に高かった。Small Talk は本単元では続けて3回実施したことで、しっかりと聞けば理解していけることを実感しているようである。

第1時の振り返りでは、Small Talk についての記述が無記入の児童が10名、本時のActivity についての感想を記述した児童が5名ほどであった。Small Talk の時間であることをフラッシュカードや口頭で伝えていたが、これまでの授業と同様に本時のActivity の導入と捉えている児童が多かったと思われる。授業後に改めて説明を行い、第2時、本時の実践と重ねた結果、全ての児童がSmall Talk の振り返りを記述することができた。その内容は「ふだん指されないからびっくりしたけど、しっかり言えた。」など、これまでの授業とは違った緊張感を感じて学習に参加していた児童もいた。

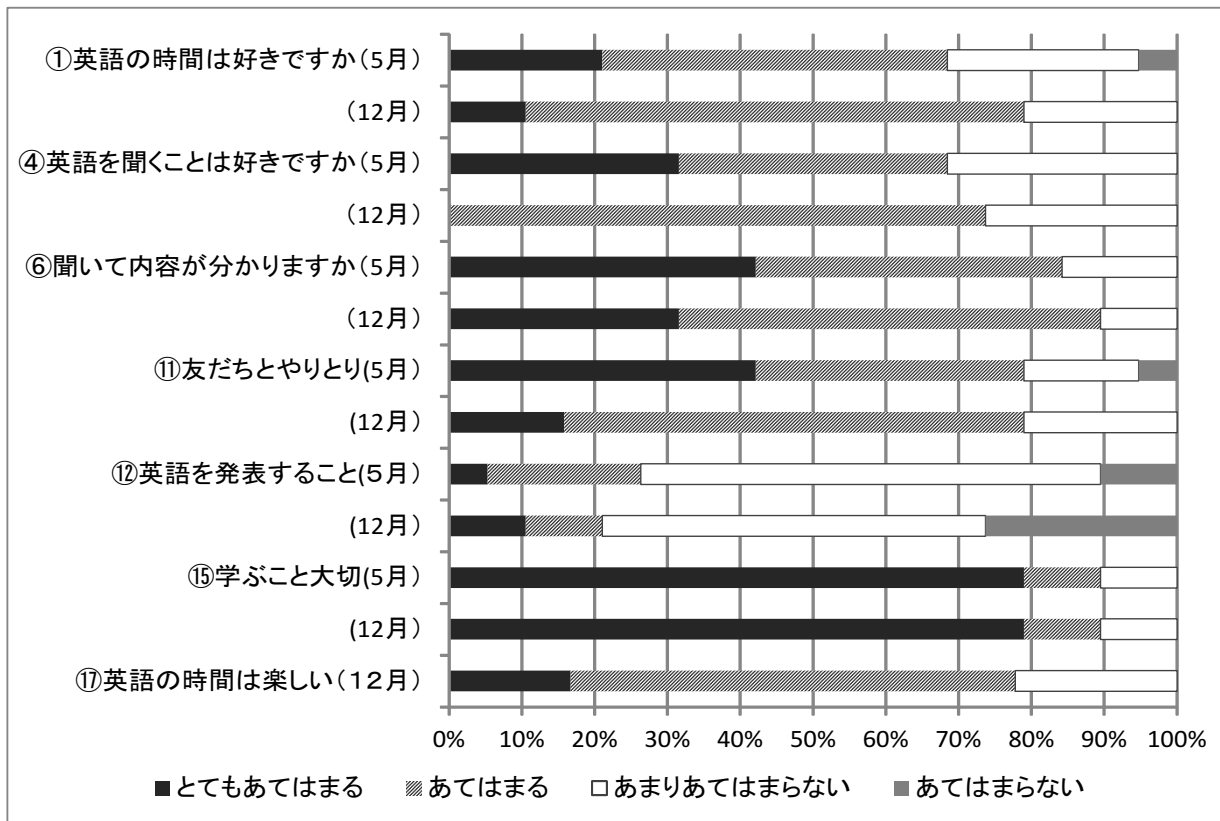
また、「誕生日の聞き方や、何がほしいかわかった。」「わかりやすい発表 (T1、T2 のやりとりのこと：筆者注) だったのでよくわかった」「面白いと思った。今日の学習内容がわかる。」の記述もあり、本単元以前の既習表現を忘れかけている児童にも定着を図る上で効果的であることがわかった。

さらに、「友松先生が誕生日にほしいものがわかった。」「みんなの誕生日も聞けたし、みんな

のほしいプレゼントも聞けたので楽しかった。」「誕生日にほしいものが面白い人がいた。」「いろいろな人のことがわかった。」という記述も見られ、Small Talk の中で伝えられる情報自体が児童にとって興味を持てる内容となっていたと考えられる。

本単元のゴールは、相手とのやり取りではなく、アルファベットの大文字や小文字を使っていくこととなっていたため、次単元の「自己紹介をしよう」で扱う表現を1～3時に分けて取り上げることにした。単元のゴールは毎時間提示していたが、本単元の Small Talk で扱った言語材料が確認できるような掲示物を用意することで、児童の意識を一層単元のゴールに向けることができ、発表の際には本単元で伝え合った内容を自己紹介の内容として発表内容を考えることに役立った。

(2) 外国語科に関するアンケートから



英語の時間が好きな理由		
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなとゲームなどをするのが楽しい ・会話やゲームができるから ・分かりやすく教えてくれるから ・あまり得意ではないけど、カードゲームなどできるし、発音など、ちがう国の言葉が知れるから。 ・学習塾よりも楽しいから ・発音したりするのが楽しい ・楽しいし、外国語が分かるから 		
聞くことではどんな学習が好きか (複数回答可)	5月 (人)	12月 (人)
英語の発音を聞くこと	8	7
先生たちの会話を聞くこと	6	6
いろいろな国の言葉を聞くこと	16	13
友達の気分や好きなことを聞くこと	15	13
計	45	39

アンケート項目「英語を学ぶことは大切だと思いますか」が児童の評価が最も高く、実践の前

後で共に8割の児童が「とてもあてはまる」と回答している。その理由としては「将来必要になる」「外国に行ったときに使える」などの記述が多い。英語を聞くことややり取りをすることに対して、8割前後の児童が「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答しており、実践の前後で大きな変化は見られなかった。また、本学級の実態として「発表すること」に対する回答は否定的なものが7割以上と対照的であった。これは実践後ではやや低下した。その理由から、もともとクラスで発表することに対して、肯定的な児童と否定的な児童のバランスが反映されていると言える。否定的な児童の理由では、「緊張してうまく発音できない」「間違えたら恥ずかしい」などの意見があり、基本的な表現や語句の発音練習などが十分に行うことができてなかったことも原因の一つと考えられる。限られた時間の中で全体での練習、ペアでの練習など形式を変えながら練習量を確保していくことが課題である。

(3) 考察

- 質問する内容は、児童が聞きたい、知りたいと思える内容にすることで「伝える楽しさ」や「伝える実感」を感じるようになる。
- どんなプレゼントがほしいかをすぐに決められないこともあるので、事前にアンケートで答えさせた。指名のための資料にすると共に、さらに詳しく尋ねる質問を考えることができる。
- Small Talk でどんな話題や表現を扱ったかを日本語でふり返るとともに、教室掲示をしておくことで単元のゴール（発表）の時に活用できる。
- 「友達のことをもっと知りたい」「友達に聞いてほしい」と思えるような望ましい学級集団を前提として、英語で伝え合うことを楽しむ児童の育成を目指していく。
- Small Talk でのやり取りや単元のゴールでの発表に積極的に参加できるようにするために、基本的な表現や語句の発音練習を確保して自信を付けさせていくことが必要である。
- 児童とのやり取りでは、既習表現の中で臨機応変に反応することやさらに詳しく尋ねるための質問をするには指導者の英語力を高める必要がある。
- 指導者に、英語をできるだけたくさん使わせたいとの思いが強く、児童が答える内容に迷っているのか、英語で表現できなくて困っているのかが把握しきれなかった。理解できていないときには日本語で聞き直すことや、児童が日本語で答えることを認める雰囲気をつくる必要がある。

1 単元名 What would you like? 食べ物、料理 (Hi! Friend 1, We can!)

2 児童の実態

本学級は、男子7名、女子14名の計21名である。どの教科においても、学んだことをやってみようと前向きに取り組む児童が多い。数名は、自信がもてず不安な気持ちを言葉に出すが他の児童が教えたり励ましたりすることで頑張ろうとする。

【知識及び技能】

話すこと・聞くことの活動を通して、色、動物、果物、食べ物、飲み物、月、日付、数などの英単語を学び、それを定着させるために Small Talk で取り入れ、繰り返し使うようにしてきた。その成果があり、自信がつき、はっきり大きな声で発音する児童が多い。ただ、単語ではなく文になると定着率が下がる。本単元では、丁寧に注文をとったり、たのんだりする表現 would like を学ぶが、既習事項で気軽にほしいものと言う want を学んでいる。本単元に入る前に I want ~ の意味を確認したところ、I like ~ と混同している児童が半数程度いた。それゆえ、I want の意味を確認してから I want ~ と I would like ~ の違いを押さえる必要がある。また、値段を尋ねたり、答えたりする表現も使うので、数の言い方を確認したところ thirteen(13)と thirty(30)、fourteen(14)と forty(40)などの区別が難しいようである。また、値段を尋ねる新出表現の How much? が既習表現の How many? と混同したり、hundred(百)や thousand(千)が聞き慣れなかったりするので Small Talk や Activity で繰り返し使うよう単元の指導計画を作成した。単元のゴールで家族のために昼食を注文する時には家族の呼称を使うので、mam, dad, などの英単語を児童に飽きさせずに繰り返し発話させることを通して定着を図る。

【思考力・判断力・表現力等】

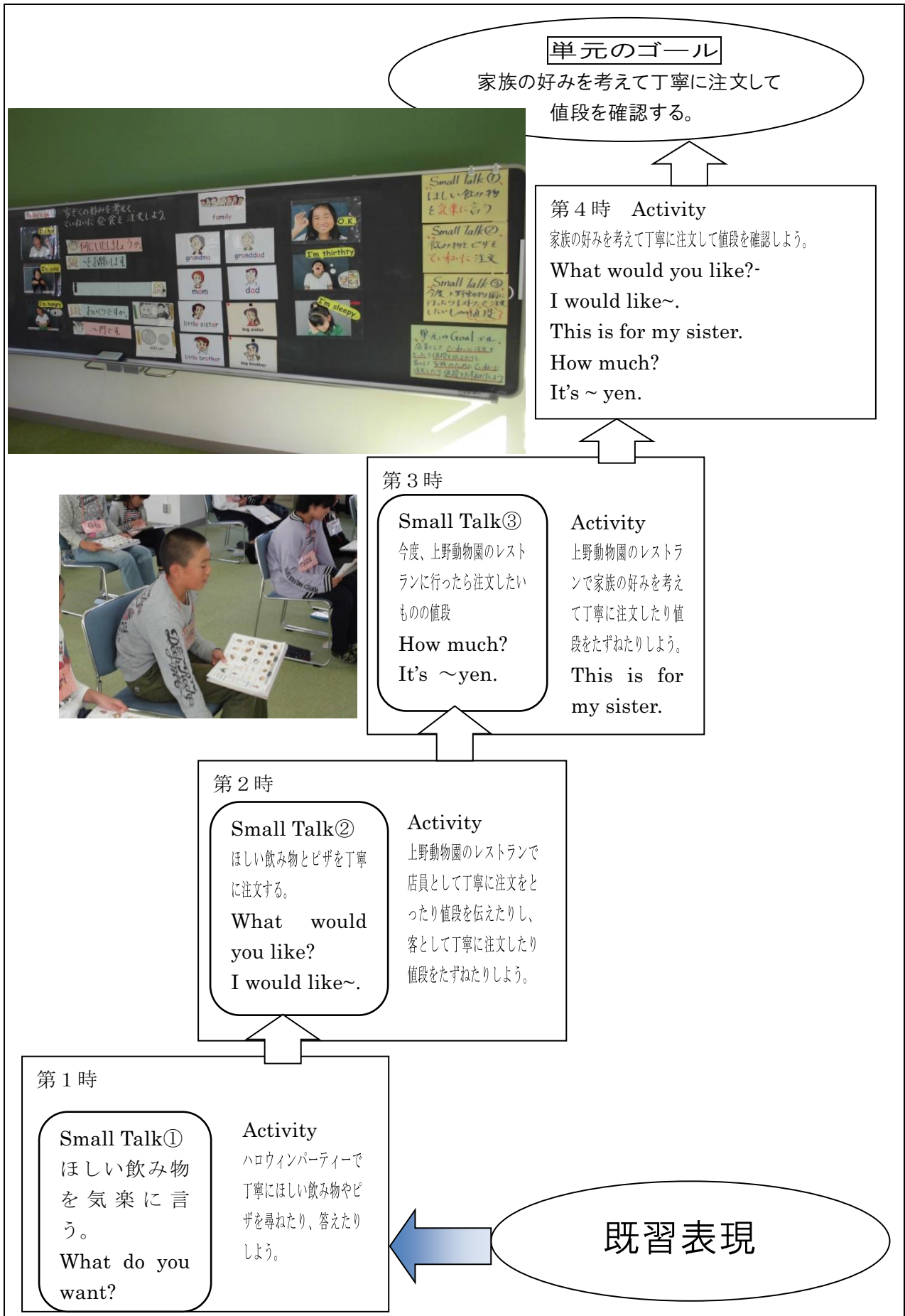
9月に I want ~. を使って「友人に食べ物の好みを聞き、スペシャルランチメニューを作ろう。」という Activity をした時に、ほとんどの児童が友人の情報を活用してメニューを考え、絵に表すことができたことから思考力・判断力の高さがうかがえた。本単元でも家族の好みを考えてレストランで注文する Activity において力を発揮してほしい。表現力に関して、1学期に個人で絵を見せながら行った自己紹介を振り返ってみると、Small Talk や Activity で繰り返し発話した成果があり、ほとんどの児童が大きな声で発表を楽しんでいた。本単元でも Small Talk と Activity を積み重ね、単元のゴールで自信をもって発表し英語で伝え合うことを楽しんでほしいと考える。

【学びに向かう力、人間性等】

正確に英語を聞き取ったり、話したりするだけでは、英語という記号の行き来だけで味気ないものになってしまう。話す活動(やり取り・発表)においては、聞く人の気持ちを考えて話すことが大切である。そこで、話す活動のポイントとして、「Eye Contact 相手を見て」「Smile 笑顔」「Reaction 反応」「Gesture 身振り手振り」「Clear Voice はっきりとした声」の5つを心がけるよう指導している。この5つに共通して言えるのは、相手が分かりやすいように配慮することと考える。一つずつ児童の様子を分析すると Eye Contact に関しては、よくできている。ふだんから目を見るとはずかしいから、首のあたりを見ると丁度よいと助言している。Smile に関しては、児童が興味を持つ身近な話題を用いた Small Talk や Activity を設定することで自然に生まれることが多い。Reaction に関して、会話の中で、Me too. Really? など、数名の児童は自然に言えるが、まだ慣れていない児童が多いので教師が意識して言わせることが必要である。Gesture も恥ずかしい気持ちがあり、躊躇する児童が多いので、教師が使ったり、上手な児童を手本にして真似るようにさせたりしたい。Clear Voice に関しては、英語が難しかったり、長くなったりすると小さい声になるので、繰り返し発話させるよう1時間の授業の展開や単元の指導計画を考える必要がある。

3 研究との関連

(1) 本単元での Small Talk の役割



ほしいものや値段を丁寧に尋ねたり答えたりする表現を使う場面として、児童がとらえやすいのは店でのやりとりである。

そこで、児童にとって身近な話題にしたいと考え、実際に秋のバス旅行で訪れた上野動物園のレストランで注文や値段を尋ねたり答えたりする活動を単元のゴールに設定した。

この単元のゴールに向かって、Activityを工夫する。そのActivityで学んだ表現を次の時間のSmall Talkで用いることで言語材料を復習し、定着を図る。

上記の図で示した通り、1時間ごとに表現を付け加え、児童が負担なく表現を広げるようにする。ゴールでの発表では、暗記したことを話すのではなく、Small TalkやActivityで繰り返し表現して理解した知識を活用して、どの英語を用いるか思考、判断し表現することをめざす。

4 本時の学習

(1) ねらい

家族の好みを考えて丁寧に昼食を注文する。

- (2) 準備 チャンツのDVD、バックミュージック用CD、写真 (Small Talk 用)、ベル、授業の流れカード、会話のポイントカード、つなぎ言葉カード、感情を示す言葉カード、家族の呼称カード、上野動物園レストランのメニュー (大1, 小1 1)、お店ごっこ用お金 (大1、小2 1)、紙コップ、紙皿、計算機、振り返りシート、単元構想図、ストップウォッチ、キーボード (リズムボックス)

(3) 展開

主な学習活動	過程 (時間)	指導上の留意点及び支援 評価項目○おおむね満足◎十分満足【評価方法】	
		HRT (T1)	ALT(T2)
1. Greeting 2. Chant 「ハンバーガーじゃなくて hamburger」	5分	<ul style="list-style-type: none"> How are you?—I'm okay.などを言う時に Gesture をつけるようにさせる。日付を言うときに指で数字を示すようにさせる。 単元に関係のあるチャンツを取り入れ楽しくインプットする。 	
3. Small Talk 「今度、上野動物園のレストランに行ったら注文したいもの」 <ul style="list-style-type: none"> 写真を見ながら教師の質問に答える。 教師の質問に対する答えに加えて、Reactionとして Me too. Really? 形容詞で Good! Cute! Cool! Delicious! など Gesture をつけて言う。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk で Reaction として使用させたい Me too.と Really?を確認する。 実際に秋のバス旅行で訪れた時に撮影した写真を見せながら、既習事項の What is this?! Do you like~?を用いて動物について質問したり、本単元の中心となる What would you like? で質問して、I would like で答えさせたりする。実際にメニューを見せながら答えさせることで<u>自分の本当の思い</u>を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> Me too と Really? を Gesture をつけて言い、児童に繰り返させる。 T1 の質問に答え、児童の手本となる。 難しい英語があったら、T1 が英語にするよう頼み、英訳する。

Small Talk : 今度、上野動物園に行ったらレストランで注文したいものの値段

T1: (パワーポイントを用いて)

We went to Ueno zoo on ...

(日本語で書いた日付を見せて
全員に英語で言わせながら、
指で数字を示させる。)

上野動物園

9月27日



Ss : September 27th. (←指で数字を示しながら)

T1: *Good!*

(多くの児童が Yes、No で答えられるような質問をするために) Do you like animals?

Ss: Yes.(児童のモチベーションがあがる)

T1: (児童が英語で言えないことは部分的に日本語で話してよいことを示すために T1 と T2 で会話) What animal do you like?

T2: I like ハリネズミ. (←英語で言えないことは部分的に日本語で言うと自分の本当の気持ちが言える。)

T1: (Gesture をしながら) *Really?*

(児童の反応が少ない時は、*Really?*のピクチャーカードを指さして Gesture をするように促す。)



T1: (児童が実際に撮った動物の写真を見せながら)

What is this? (←前の Unit までの既習表現も積極的に使用)

Ss: Penguins.

T1: I like penguins. Do you like penguins? ○○さん

(←英文を言った後に指名することで、他の児童も英文を集中して聞く)

S1: Yes. (本単元の新出言語材料ではないので、Yes, I do.

の I do を児童が言わなくても指摘しない)

Ss: *Me too.*(←児童が反応できるとよい)

T1: (Gesture をしながら) Is it *cute*?

Ss: *Cute!*

(他の動物についても同じようなやり取りを行う)



T1: (レストランで児童がうどんを食べている
写真を出して)

Oh, restaurant. What is this? ○○さん

S2: Udon.

T1: *Good?*

Ss: *Good!*

(他のものを食べている児童の写真を見せ同じようなやり取り)

T1: You cannot look at シャンシャン. (←can は未習だが、使うのは教師なので、
Gesture で補う)

Please go to 上野動物園 with your family again. If you go to the restaurant,
what would you like? (←again、if は未習だが、Small Talk で話す
こととして、最初に提示した日本語を指さしながら話すことで補助する)

S3: I would like udon. (教師が would like を用いて質問したので、児童も前
時の Activity を思い出し I want~ではなく、I would
like ~で答えられる)

T1: How much?

Ss: It's 670 yen. (値段はパワーポイントの文字が小さく見えづらいのでメニ
ュー表を見ながら答えさせる。)

(何人かに聞く)

T1: (児童に質問させるため) Please ask ○○先生.

Ss: What would you like?

T2: I would like ヒレカツカレー大盛. How much?

Ss: (ヒレカツカレーの値段に800円に大盛の50円を足して)

It's 850yen.

T1: That's all for Small Talk. Thank you. (←Activity やデモンストレーションと
Small Talk を区切るために終わりを示す。)



3. 前時までの表現を確認
・ 日本文を見て、英文を一斉に言う。

25分

- A1 「何にいたしましょうか。」
B1 「～をお願いします。」
B2 「 ? 」
B3 「おいくらですか。」
A3 「～です。」

上記の日本文を提示し、児童が英語で言えるかどうか確認したり、T2の後に続いて言わせたりする。

- ・ Gesture をつけて英文を言い、児童に繰り返させる。

4. 今日のめあてを確認
・ B2 で使う表現に関心を示し教師のデモンストレーションを聞く。
・ [場面]
場所：上野動物園レストラン

家族の好みを考えて丁寧に昼食を注文しよう。

- ・ B2「これは私の～のためのものです。」を提示し、今日のめあてを意識させる。
・ 場面を説明する。
・ 店員としてデモンストレーションの英文を話す。

- ・ 客としてデモンストレー

<p>役割：店員として丁寧に注文をとったり値段を伝えたりする。客として丁寧に注文したり値段をたずねたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族のために注文したことを伝える表現を知る。 This is for my sister. ・ 家族の呼称を英語で言う dad, mom, grandpa, grandma, sister, brother, pet, me <p>5. Activity 話す活動（やり取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師リードのもと一斉 ・ ペア（両方の役を交代でする。） ・ 複数の友人と対話（店員と客に半分に分かれて対話する。客役児童が店を選んで注文に行く。1人と対話したら、次の店に行って注文する。） ・ 話す活動（発表） 代表児童(中間) ・ 役割を交代して会話する。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>T1: <i>Hello.</i> T2: <i>Hello.</i> T1: <u>What would you like?</u> T2: <u>I would like</u> オムハヤシライス and ホットココア. T1: <i>O.K.</i> T2: <u>This is for my sister.</u> T2: <u>How much?</u> T1: <u>It's 1,060 yen.</u> T1: <i>Here you are.</i> T2: <i>Thank you. Bye.</i></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ T2 に続いて繰り返す練習後、リズムに合わせて、英語を繰り返させる。それができたら、児童だけでリズムに合わせて英語を言わせる。 ・ 提示した日本語を指さしながら英語を言わせる。 ・ 店員として英語を言う。児童に客として一斉に言わせる。 ・ つまづいている児童を支援する。 ・ 小物（皿や紙で作ったお金など）を使ったり、バックミュージックを流したりし、雰囲気を作る。 ・ 注文は一度につき2つまでとし、複数の店に行かせる。 ・ 支払いはおつりがないようにさせる。 ・ 代表児童を選ぶために観察する。 ・ 「Smile」「Reaction」「Gesture」「Clear Voice」の中から上手にできた点を伝えるように促す。場面も意識して、家族のために考えて注文できるとよいことを伝え、レベルアップを目指すように助言する。 	<p>シヨンの英文を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文を言い、児童に繰り返させる。 ・ 家族の呼称を英語で言い、児童に繰り返させる。 ・ 客として英文を言う。児童に店員として一斉に言わせる。 ・ つまづいている児童を支援する。
--	---	---

<p>予想される生徒の姿と支援</p> <p>ア 家族の好みを考えて丁寧に注文することができる。</p> <p>→ レストランの店員として、SmileやGestureを大切にしよう助言する。</p> <p>イ 家族の誰にしようか迷ったり、うまく言えなかったりする。</p> <p>→ お母さんにして注文しようと声をかけたり、教師の後について英文を言わせたりする。</p>		
<p>○家族の好みを考えて丁寧に注文している。</p> <p>◎場面を理解して、家族の好みを考えて丁寧に注文している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>		
○代表児童の発表（終末）		<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の代表児童より、よりよい発表ができそうな児童を指名する。賞賛の拍手をさせる。
6. Looking back	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・Small Talkの内容と今日のめあてを再確認してから、振り返りカードに記入し、今日の取り組みを自己評価させる。



〈写真1〉店員が計算機で合計を計算



〈写真2〉客は支払う



〈写真3〉第3時の中間発表（レストラン）



〈写真4〉2月の発表（友達紹介）

5 実践授業の結果と考察

(1) 授業の振り返りカードから

〈資料ア〉 第3時と第4時 (単元のゴール: 2人組で発表)

③ 10月30日	めあて 家族の好みを考えていないに昼食を注文しよう。
楽しく学習に取り組みましたか。	
今日の学習はわかりましたか。	
積極的に英語を使えましたか。	
クイズ・質問等	
感想 Small Talk (スモールトーク) について	ねだんのことをはっきり言えた
感想 授業について	自分の注文したいものなどをしっかり言えた。
④ 10月31日	めあて 店員としていないに注文をとり順番を伝えたり、客として家族のためにいないに注文したり順番をたずねたりしよう。
楽しく学習に取り組みましたか。	
今日の学習はわかりましたか。	
積極的に英語を使えましたか。	
クイズ・質問等	
感想 Small Talk (スモールトーク) について	
感想 授業について	発表はきんちあしたけれど自分のほしいものや家族のためのものがいえてよかったです。

〈資料イ〉 第3時と第4時 (単元のゴール: 2人組で発表)

③ 10月30日	めあて 家族の好みを考えていないに昼食を注文しよう。
楽しく学習に取り組みましたか。	
今日の学習はわかりましたか。	
積極的に英語を使えましたか。	
クイズ・質問等	
感想 Small Talk (スモールトーク) について	ねだんを体利言えた
感想 授業について	家族のこのみ考えられた
④ 10月31日	めあて 店員としていないに注文をとり順番を伝えたり、客として家族のためにいないに注文したり順番をたずねたりしよう。
楽しく学習に取り組みましたか。	
今日の学習はわかりましたか。	
積極的に英語を使えましたか。	
クイズ・質問等	
感想 Small Talk (スモールトーク) について	
感想 授業について	お店の人で大声ではなれなければねだんが必ずかしい

〈資料ウ〉 第3時 Small Talk の感想

感想 Small Talk (スモールトーク) について
英語が分かりやすく聞きとれました。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
よく分かりました。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
ねだんの言い方がわかった。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
たのしかった。ちゃんときけた。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
ねだんなどいろいろなことが英語で言えた。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
言いたいことがいえた。

感想 Small Talk (スモールトーク) について
ねだんのことをはっきり言えた。

〈資料エ〉 第4時 2人組で発表した感想

感想 授業について
アイコンタクトがしっかりできたのでよかったです。

感想 授業について
みずやあつたがなごりスマイルたうたりみんなよくできておもしろい。自分もたときほほほかめたけとたんだんはれてきました。

感想 授業について
私は、お客さんのやくで、スマイルがよくできていいこと思いました。おもしろいのはおしゃべりでした。みんな教え合っていていいと思えました。

感想 授業について
発表で"ていんさんで"はあかしかったけど、声もせせし、笑顔もできてよかった。

感想 授業について
店員としてねだんなどがよくいえました。

感想 授業について
客として順番をたずねました。

感想 授業について
みんなの注文をする様子が見れて、自分も言えて楽しかったです。

感想 授業について
客のこれはわたしのためのものですが、がまだいえないです。

○ 〈資料ア〉 〈資料イ〉 は、第3時と第4時 (単元のゴール) の振り返りカードである。これらの

児童は、ねらいを理解して、感想が書けている。第3時では、第2時に学習した値段の言い方を活用する **Small Talk** であり、「値段をはっきりと言えた。」と書いている。**Activity** は、家族のために注文する活動であるが、**I would like~.**を用いて、家族の好みを考えて注文できた様子がうかがえる。それにより、第4時の発表の時には客として家族のために注文できたり、店員として難しいと感じながらも大きい声で話せたりしたと書いている。



言語材料が定着し、自分の思いを英語で言えた

- 〈資料ウ〉は、10月30日の実践授業での **Small Talk** の振り返りである。「英語が聞き取れた。」「値段など言いたいことが言えた。」「楽しかった。」と書いている児童が多かった。外国語科に関するアンケートで、英語を聞くことがあまり好きではなく分からないと答えていた児童も前向きな記述をし、聞くことに慣れたと考えられる。



自信をもって英語を言えた
聞く力がついた

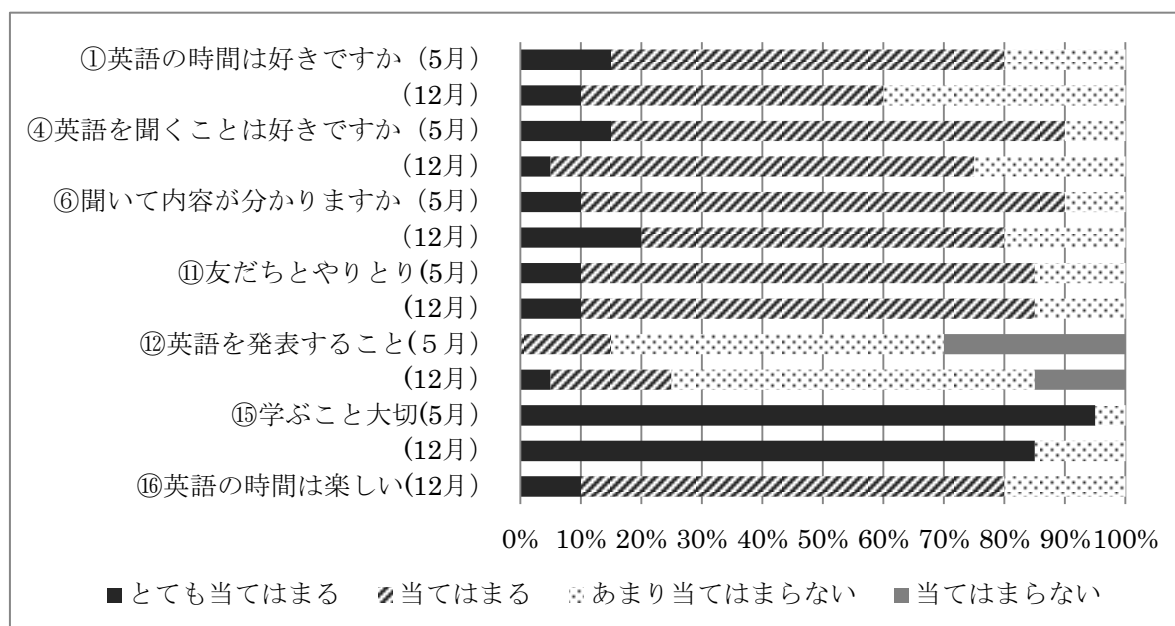
- 〈資料エ〉は10月31日の単元のゴールとして行った発表の授業の振り返りである。この単元の発表は、上野動物園のレストランで店員と客として2人組の発表であった。話す活動のポイント **Eye Contact**、**Clear Voice**、**Gesture**、**Smile** の4つがよくできたと記述している児童が多かった。また、「はずかしかったけれど、慣れてきて楽しかった」と書いている児童が多かった。「わたしの~のためのものです、がまだ言えない。」という記述もあった。**This is for my ~**は、発表の前時の第3時で学んだばかりで **Small Talk** には入れなかった表現である。そのため、他の表現 (**I would like~. How much~?**) に比べて発話量が少なかったことが定着しない1つの要因と考えられる。時間との兼ね合いもあるが、第4時でも **Small Talk** を入れ、**This is for my ~**を復習する工夫をしてもよかったと思う。



英語で伝え合うことを楽しめた

Small Talk は言語材料の定着に有効である

(2) 英語科に関するアンケートから



英語の時間が好きな理由

・電子黒板を見ながら歌うのが楽しい・先生の説明が分かりやすいから・やり取りや発表でみんなのを知ることができるから・将来のためになり、外国に行っても使えて楽しい ・言えるようになると楽しい。(すべて12月の回答)		
聞くことではどんな学習が好きか(複数回答可)	5月(人)	12月(人)
英語の発音を聞くこと	12	9
先生たちの会話を聞くこと	8	7
いろいろな国の言葉を聞くこと	10	6
友達の気分や好きなことを聞くこと	16	17
計	46	40

- ④の「ALTの先生や担任の先生、友達の英語を聞くことは好きですか。」という質問に対して、「あまり好きではない。」が2人(5月)から5人(12月)に増えている。また、⑥の「ALTの先生や担任の先生の英語を聞いて内容が分かりますか。」は、「よく分からない」が2人(5月)から4人(12月)に増えている。これは、英文の内容が難しくなったり、教師が日本語を使わないようにして英語を聞く量が増えたりしたためと考える。



教師は、難しい英語を使わないように心がけたり、Gestureや視覚資料を用いたりする
児童が多少苦しさを感ずても慣れさせていく

- ⑩の「友達の前で英語を発表することは、好きですか。」という質問に対して、「とても好き」が0人(5月)から1人(12月)、「好き」が3人から4人、「あまり好きではない」が12人から12人と同数、「きらい」が6人から3人に減っている。全体的に苦手意識が薄れていると思われる。これは、単元のゴールで発表するために、Small TalkやActivityで練習という感覚を持たせないように繰り返し使用するよう工夫し、児童の不安を取り除けたためと考える。児童の発表の様子を見ていると、Smile、Gesture、Eye Contact、Clear Voiceを意識して発話し、成果は確実に上がっていると思われる。また、友人の発表を聞きながらReactionを入れるようになったのも成果である。



Small Talk、Activityで繰り返し発話することにより苦手意識が薄れる
Smile、Gesture、Eye Contact、Clear Voice、Reactionが身につく

(3) 考察

- 前時のActivityで用いた言語材料を基本としながらも、それ以前(前学年等を含む)の言語材料を加えることで、自分の尋ねたいこと、伝えたいことが言える。
- 教師がGestureをするよう促すことで児童は自然にできるようになる。
- 5年生では、Reactionとして“Me too.” “Really?” “Cute!” “Cool!” “Good!”などの「一言感想」を意識させるため、ピクチャーカードを掲示することは有効である。
- 東京旅行で訪れたレストランのメニューを使用したことで児童が身近に感じ、楽しめた。
- 客は食べたいものを考え、店員は、注文をうけて値段を計算し伝えるなど即興的なやり取りになり、思考・判断をして表現できた。
- 児童が撮影した写真を用いたり、計算機で値段を計算させたりしたことで動機付けできた。
- 教師が「質問する」→児童が「答える」というやり取りに加え、教師が「さらに質問」することで会話が広がる。
- 教師が「質問する」→児童が「答える」というやり取りに加え、答えた児童が「一言加える」ことができるとうい。
- 児童が「質問する」→児童が「答える」というやり取りも積極的に加えるとよい。

1 単元名 She can run fast. He can jump high. できること

2 児童の実態

本学級は、男子7名、女子12名の計19名である。話をよく聴いて授業に集中して取り組める児童がほとんどであるが、個別支援を要する児童も数名いる。

【知識及び技能】

授業やEタイムで、動きを表す語「ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well」については、児童が聞き慣れた語が多いが、英語で学習するのは初めてである。また、Can you~?の表現についても初めての学習である。

英語で会話を続けるために大切な、「コミュニケーションのポイント」や「対話を続けるための基本的な表現」については、4年生までにはほとんど使ってきていない。そのため、会話をする際にこれらのポイントを意識できるように、教室に掲示して継続して使用してきている。少しずつではあるが、「Me too.」などのリアクションを取れる児童が増えてきた。

【思考力・判断力・表現力等】

担任とALTが授業でSmall Talkを行い、コミュニケーションをする姿を児童に見せている。その中で児童に既習の表現を使って尋ね、答えることも行っている。覚えた基本的な表現や単語を自分で取捨選択して、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく表現できる児童もいる。

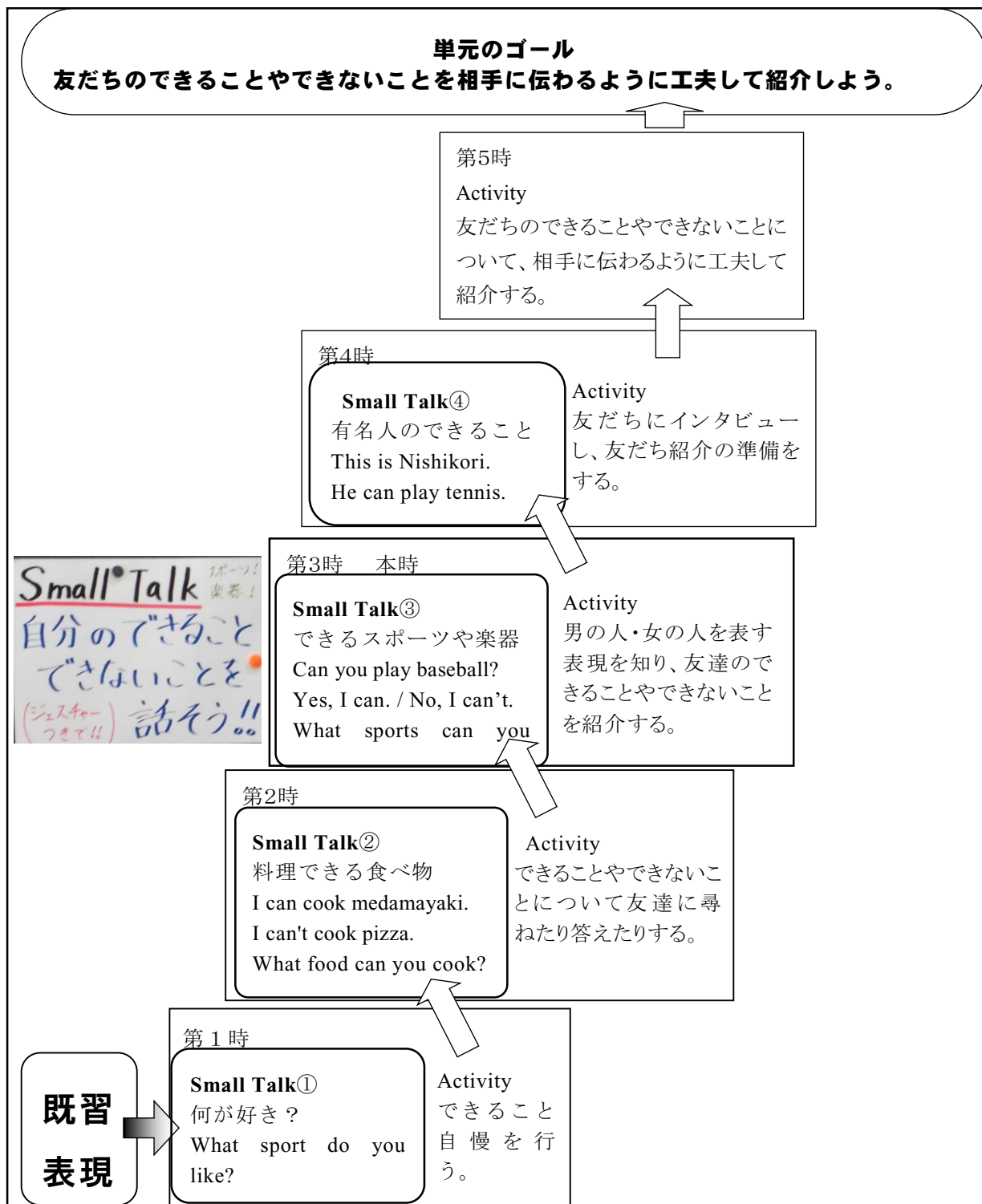
1学期には、I like~. What~ do you like?を使って、好きなものを言ったり、尋ねたりする単元を行った。この単元のSmall Talkでは、「What sport do you like?」「What food do you like?」などの質問で、教科書に出てきた単語を使うだけでなく、自分が本当に好きなスポーツや食べ物を答えられる児童が数名みられた。ただ、教師が「I like~?」などのヒントを出しながらでないと答えられない児童も数名みられる。上位の児童に対しては、本単元では「What sport can you play?」になっても、答えられる児童が多いと考えられるので、他の児童にも広めていけるようにしたい。

【学びに向かう力、人間性等】

アンケートでは、9割以上が、英語が好き・楽しいと答えている。この理由は、「英語の時間でビンゴなどのゲームをすることができるから」と、授業中のアクティビティ自体のことで答える児童が多くみられ、「友達のことを知れるから」、「英語で会話をするのが楽しいから」と答える児童は、5名程度である。本単元は、ジェスチャーがしやすく、自分の気持ちが伝えやすい単元である。そこで、ゲームなどの楽しさから英語が好きという考えではなく、「自分の思いを英語で伝え合えるから好き」という考えの児童が増えてくれることを期待する。また、英語を学んでおくことは、将来外国の人とコミュニケーションを図る上で大切なことだと考えている児童が多く、学ぶ意欲につながっていると考えられる。

これまでの学習で、英語で伝え合うことに徐々に楽しさを感じられてきているが、人前で自分のことについて英語で発表することに、抵抗を感じたり、緊張して失敗するのが嫌だと考えたりしてしまい、思うように英語で伝えられない児童が多い。さらに、5年生になってから、コミュニケーションのポイント「Eye contact」「Clear voice」「Smile」「Reaction」「Gesture」の5つに気を付けながら会話をさせているが、相手を見ずに一方的に話してしまったり、相手が理解したかを気にせず話してしまったりと課題がある児童が多い。また、聞く側もただ聞いているだけで、自分の考えと比べたり、相手のことを考えたりしながら聞いている児童も少ない。「対話を続けるための基本的な表現」を意識させて、自分と同じことには「Me too.」と言ったり、違うことには「Really?」「I see.」などと言ったりできる児童が増えるように意識させたい。

3 研究との関連



○本単元での Small Talk の役割

本単元で扱う基本的な表現は「Can you~? Yes, I can. / No, I can't. She / He can」である。また、動きを表す語として「ride a bicycle / unicycle, swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well」などを扱う。本単元では自分に合った動きを表す言葉を選ぶことができ、ジェスチャーをつけやすく児童は楽しく伝え合うことができると考えられる。Small Talk において T1 や T2 がジェスチャーも入れながら表情豊かにやり取りを行うことで、児童自身ができることやできないことを伝えたいという意欲を高められると考える。T1 や T2 のやり取りを聞かせるだけでなく、児童が自分自身に関することを言える場面もつくりながら、既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、定着が図られるようにする。

4 本時の学習

- (1) ねらい 友だちのできることに紹介することができる。
- (2) 準備 教師：教師の写真・野球の道具などの実物 動作を表す言葉のカード
児童：名札 振り返りカード 教科書 We can!1
- (3) 展開

学習活動	時間 (分)	学習の支援及び留意事項等 評価項目 ○おおむね満足◎十分満足【評価方法】	
		HRT(T1)	ALT(T2)
1 Greeting & Warm-up /挨拶とウォームアップ ・天気、曜日、月日について答える。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で簡単な挨拶をする。 ・楽しく学習に取り組む雰囲気づくりをする。 	
2 Small Talk ③	7	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>T1: Hi! ケリー先生. I can play baseball.</p> <p>T2: Oh! <i>Really?</i> Gesture</p> <p>T1: Yes! Can you play baseball?</p> <p>T2: Yes, I can. I can play baseball a little.</p> <p>T1: <i>Oh, a little? It's OK!</i></p> <p>T2: But I can play ice hockey. (ジェスチャーをつけて)</p> <p>T1: <i>Really? Nice! You can play ice hockey.</i></p> <p>T2: Can you play ice hockey? くり返し</p> <p>T1: No, I can't.</p> <p>T2: No? <i>OK.</i> What can you play?</p> <p>T1: I can play soccer.</p> <p>T1: <i>Yes! Can you play soccer?</i></p> <p>T2: Yes, I can. 対話を続けるための表現</p> <p>T1: <i>Oh, nice!</i> 対話を続けるための表現</p> <p>T2: I can play soccer. Saturday, let's play soccer!</p> <p>T1: <i>OK! Let's play soccer!</i></p> <p>T2: Can you play soccer?</p> <p>Ss: <i>Really??</i> 対話を続けるための表現</p> <p>S1: No, I can't.</p> <p>S: <i>Really!?</i> Soccer だよ?</p> <p>S1: Soccer か! Hockey かと思った!</p> <p>S2: No, I can't.</p> <p>S3: No, I can't.</p> <p>S4: ……</p> <p>S4: I can play the piano.</p> <p>S5: No, I can't.</p> <p>S5: え〜と…</p> <p>S5: I can play baseball.</p> <p>S6: Yes, I can.</p> <p>T2: <i>OK! Can you play soccer?</i></p> <p>T1: <i>Good! S3 さん, can you play soccer?</i></p> <p>T1: <i>It's OK! What can you play?</i></p> <p>T1: I can ~? Baseball? Soccer? Piano?</p> <p>T1: <i>Nice! S5 さん, can you play the piano?</i></p> <p>T1: <i>It's ok! What can you play?</i></p> <p>T1: (野球のジェスチャーをして、ヒントを出す)</p> <p>T1: S6 さん, can you play baseball? Gesture</p> <p>T1: <i>Ok! Nice!</i></p> </div>	




Gesture

くり返し

対話を続けるための表現

対話を続けるための表現

Gesture

<p>3 めあての確認 写真や実物を見ながら、heやsheが使われていることに気づき、本時の見通しをもつ。</p>	<p>8</p>	<p>・T1とT2のできること、できないことを紹介し合った後、他の学校の先生のことも紹介することで、heやsheをどんな時に使うのかに気づけるようにする。</p>
<p>めあて 友達ができることを紹介しよう</p>		
<p>4 クラスの子どもたちを指し、he, sheなどと言っていく。</p>	<p>4</p>	<p>・どのような時に he や she を使うのか、何度も繰り返し、理解できるようにする。</p>
<p>5 単語の復習</p>		<p>・play~, play the~, cook, swim など動詞の復習</p>
<p>6 暗記ゲーム 4人組で前の人と言ったことに自分のことを付け加えて言う。</p>	<p>6</p>	<p>・1人1人カードを持って、そのカードに書かれていることを言う。A: I can swim. B: She can swim. I can run fast. C: She can swim. He can run fast. I can play tennis. D: She can swim. He can run fast. She can play tennis. I can do judo.</p>
	<p>10</p>	<p>・デモンストレーションを見せ、イメージを持たせる ・前時に行った教科書 p37 を参考にして、友だちのできることを別のペアに紹介できるようにする。 ・1度終わったら、全体で上手くできたペアにやってもらうことで、2回目や本番の発表の時に相手を意識した発表につながるようにする。</p>
<p>7 隣の友達について紹介しよう。 He is 名前. He can play soccer.のように簡単に紹介する。</p>		<p>T1: He is ケリー先生. He can play ice hockey. He can play the guitar.</p>
<p>予想される児童の姿と支援 ア 友だちにジェスチャーをつけて紹介している。 →賞賛し、smileやclear voiceを意識して紹介できるようにする。 イ 何を紹介しようか迷ったり、うまく言えなかったりする。 →教科書の絵を見て確認したり、教師の後について言わせたりする。</p>		
<p>○友だちのできることやできないことを紹介できる。</p>		
<p>8 まとめ ・ふり返りカードに自己評価とめあてに沿った感想を書く。</p>	<p>5</p>	<p>・Small Talk の内容や本時のめあてを再度確認してから、本時の取組の自己評価や感想などをふり返りカードに記入させる。</p>

5 実践授業の結果と考察

(1) 授業のふり返しカードから

第3時での児童のふり返しカードの中に、「先生方が話している姿を見て、楽しそうできわくわくして、やってみたら楽しかった」「ジェスチャーやコミュニケーションのポイントを意識した話し方ができるようになった」「何度も紹介することによって、しっかり覚えることができた」などの記述があった。

また、1学期の児童の様子と比較すると、Small Talk を繰り返し行ってきたことで、英語での会話を楽しむ児童が増えてきただけでなく、会話の内容を理解できる児童も増えてきたと感じる。これは、Small Talk の中で、担任やALT が率先して、自分の好きなことやできることなどを話してきたことや「Really?」「Me too.」などの会話を続けるための表現を意図的に多用してきたことが、理由の1つであると考えられる。

さらに、担任が授業をリードすることで、児童の個性を把握できているため、児童が答えに困った時などに「ジェスチャー」をしたり、その児童の好きなことをキーワードとして伝えてあげたりしやすく、児童も自分の気持ちを伝えやすい環境になったのだと思う。

単元最後の感想では、「ジェスチャーを入れて、相手のことを紹介できた」「恥ずかしかったけど、しっかり発表できた今後も積極的に英語を使いたい」「発音の違いを意識して、発音も上手くなった」などの記述が見られた。このことから、Small Talk を工夫して実施することで、児童が積極的に英語でのコミュニケーションを意識し、会話を楽しみながら活動をできたのだと考えられる。

以上のことから、Small Talk の内容を前時の活動で使った表現を多用できるよう工夫したことが、「既習事項の定着」にもつながり、友だちの前での発表に以前より自信を持って臨めたのだと考えられる。

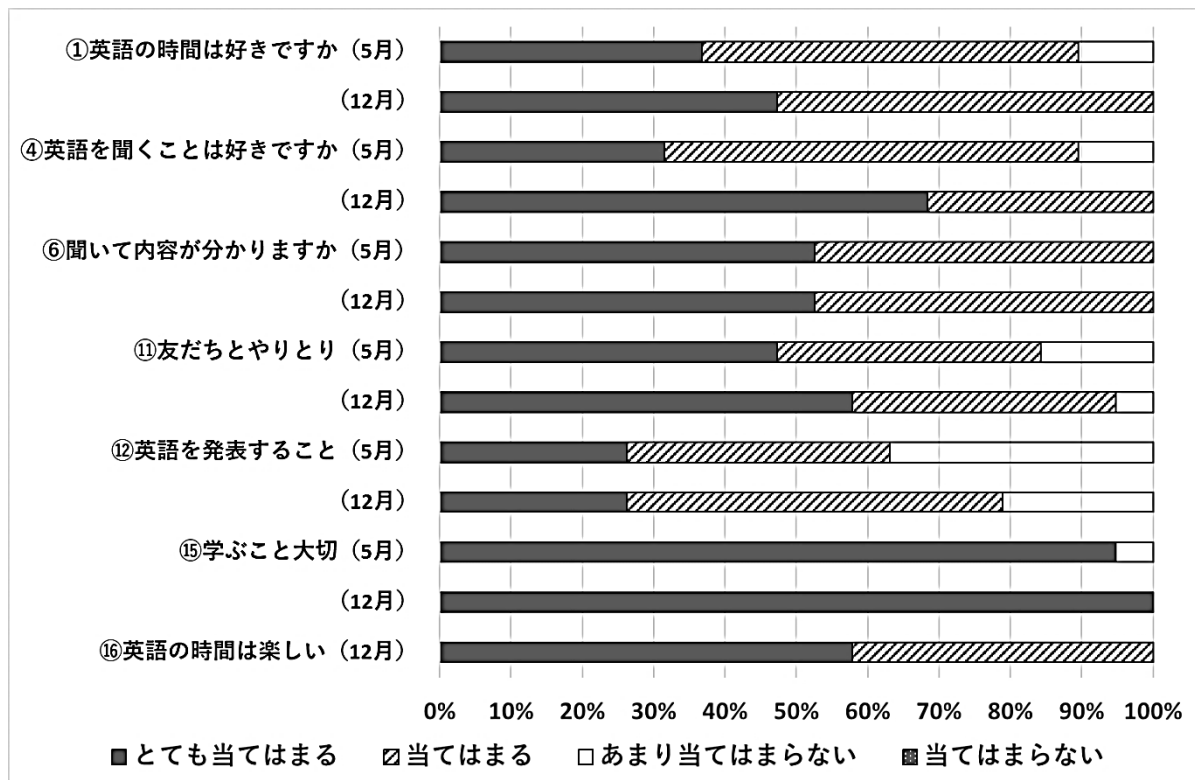
第3時の感想 (実践授業)

感想 Small Talk (スモールトーク) について 相手のできることやできないことを知れてよかった。また何度も紹介することによって、しっかり覚えることができた。
感想 授業について たくさんの方たちに見られながらもいつも通りに元気よくできた。
感想 Small Talk (スモールトーク) について 相手の目を見て聞いた。聞いた。
感想 授業について 相手のことをさらによく分かり今度からも聞いていきたい。ジェスチャーもついたらさらに分かることが知れた。
感想 Small Talk (スモールトーク) について 先生や何人か先生が話している姿を見て楽しそうできわくわくして、やってみたら楽しかった。
感想 授業について 相手のできることやできないことを知れてよかった。ジェスチャーもできたのでよかった。

第5時 単元ゴールの感想

感想 Small Talk (スモールトーク) について 三人で最初できんちようしていたけど、みんなが元気よく「ハロー!!」とが言ってくれたので自分もとてもいい気分になりました。ジェスチャーもつけて言えました!!
感想 授業について 1番最初だったけど、三人で言えてよかった。みんなの意見も知れてよかった。キャンプもよくできたと思います。
感想 Small Talk (スモールトーク) について みんなの前で発表するのは、はじめてだったけど、ジェスチャーもよくできたと思うのでよかった。
感想 授業について can, can't の発音のちがいは覚えて言えるようになったし、友だちのできる事やできない事を知れてよかった。
感想 Small Talk (スモールトーク) について She か He の書き方もおぼえられて楽しくできた。
感想 授業について ジェスチャーも入れたら、相手の事を紹介できたので英語の発音も上手にできた。
感想 Small Talk (スモールトーク) について He can't ~ がよく言えた。
感想 授業について みんなのできることを知れたのはよかったけど、しっかり発表できた。今後も積極的に英語を使いたい。
感想 Small Talk (スモールトーク) について 笑顔でアイコンタクトでジェスチャーをつけて伝えられた。
感想 授業について 笑顔ではなせばみんなも笑ってくれる。発音もよかった。友だちのことをよく知れた。

(2) 外国語科に関するアンケートから



英語の時間が好きな理由		
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでしゃべったり、ジェスチャーをしたりできる ・みんなと英語で話せて、楽しい ・ジェスチャーをしながら、楽しく学べる ・Small Talk やジェスチャーが積極的にできるようになった ・Small Talk がおもしろく、意味が分かると楽しい ・ジェスチャーなどを使って相手に伝わるとうれしい 		
聞くことではどんな学習が好きか (複数回答可)	5月(人)	12月(人)
英語の発音を聞くこと	9	8
先生達の会話を聞くこと	6	14(40%up)
色々な国の言葉を聞くこと	13	6
友達の気分や好きなことを聞くこと	12	18(32%up)
計	40	46

5月と12月に実施したアンケートを比較したところ「④英語を聞くことは好きですか」の問いで、「とても好き」と回答した児童が、約35%高まり、68%であった。「好き」と答えた児童と併せると、聞くことが好きと答えた児童が100%となった。どのような活動が好きか聞いたところ、「先生たちの会話を聞くこと」が40%高まり14名に、「友だちの気分や好きなことを聞くこと」が32%高まり、18名となった。

「⑪友だちとのやりとりが好きか」に対しては、「とても好き・好き」と回答した児童が、10%増えて95%であった。「⑫英語を発表することが好きか」に対しても、「とても好き・好き」と回答した児童が15%増え、79%となった。さらに、「⑯英

英語に関するアンケート「英語の時間は楽しいか」

りゅう ケリー先生や石田先生のジェスチャーや発音を見るのがとても勉強になるから。

りゅう 先生のスマールトークやみんなのジェスチャーをみていると、みんなちがうからです。

りゅう 先生やケリー先生のやつを見てとっても楽しくしかもよくわかりやすいから。

りゅう ケリー先生とか、ジェスチャーつきで、前で話したりしてわかりやすいしおもしろいから。

語の時間が楽しいか」では、「とても楽しい・楽しい」と回答した児童は 100%であった。

「④聞くことは好きか」「⑪友だちとのやりとりが好きか」「⑫英語を発表することが好きか」「⑬英語の時間が楽しいか」についての回答の理由を見ると、5月は「ゲームやビンゴなどができて楽しい」「みんなと話せて楽しい」という回答が多かったが、12月は「Small Talk を始めてから、積極的に英語を使おうと思ったし、前より英語の授業が楽しくなった」、「Small Talk など、みんなの事を知れるからうれしい」「先生たちが Small Talk でジェスチャーをしてくれるから、分かりやすい」「ジェスチャーを使って話すのが楽しいから、これからもジェスチャーなどを使っていきたい」など、相手とのコミュニケーションがしっかり取れるようになってきたことを楽しい・うれしいと感じているという答えが多く見られた。

特に、「⑫英語を発表することが好きか」に関しては、「4年生の時はみんなの前で発表するのは嫌いだったけど、5年生でみんなの前で話す機会が多くなったら自然と好きになり、表情やジェスチャーを見るのが楽しくなった」「発表は緊張するけど、伝わりやすいから、少し好きになった」、「みんなが【Hello】【Me, too.】と言ってくれるので、発表しやすかった」という回答が多く見られた。

ただ、あまり好きではないという児童は、4名減っているが、「つかえたりするといやだから」という児童もまだ見られる。また、「4年生よりジェスチャーなど覚えることが多くなって、少し大変だった」、「英語を読むことや発音するのが難しかった」という回答も数名、見られた。

以上のことから、1年間 Small Talk を取り入れ活動してきたことにより、ジェスチャーなどを用いて英語で自分の思いを伝えられるようになり、友だちと会話を楽しむことができるようになったことが分かる。これは、Small Talk を通して「英語を使いやすい教室環境になったこと」、「先生たちが楽しそうだから、自分達も使ってみようと思ったこと」、「上手く伝わらないこともジェスチャーなどをすれば、言いたいことを伝えることができるという喜びを味わえたこと」などを児童が感じられたからであると考えられる。また、私自身、英語に関しては全く自信がなく、英語で会話をするにかなりの抵抗感を抱いていたのだが、この1年間、児童と共に実践してきた中で、「英語が得意でなくても、使い続けることが大切である」と、強く感じた。

一方で、「ジェスチャーなど覚えることが多くなり、大変」、「発表で失敗すると嫌だ」と感じている児童もいる。本学級の児童は、3・4年生では、ジェスチャーをしたり、みんなの前で発表したりすることは、ほとんどできていない。このため、英語が少し苦手だという児童にとっては、対話を続けるための基本的な表現 (good! It's ok! Me too!) などにほとんど触れておらず、身に付けることが多くなりすぎたため、負担に感じたのだと考えられる。6学年の終わり頃には、子ども同士での Small Talk を行うので、5年生での Small Talk をレベルアップすることも必要であるが、いきなり行ってしまうとハードルが上がりすぎてしまい、負担を感じる児童がいなくても限らない。5年生の段階では、既習表現の定着と共に、対話を続けるための基本的な表現にも触れる機会を増やし、「自分の思いを伝えること」を楽しめるようにさせたいと考える。

今後 Small Talk の考え方が広まれば、3・4年生でもコミュニケーションのポイントを意識して会話をする機会が増えると考えられる。このように、児童が楽しく、英語でのコミュニケーションを継続していけるような環境を整えていけたらと感じる。

↓英語に関するアンケート 「英語の授業の感想」

スモールトークを始めてから、積極的に英語を話そうと思ったし、前より英語の授業が好きになった。これからも楽しくジェスチャーを取り入れたい。

2学期で楽しかったことは、四年の時はみんなの前で英語を話すことやジェスチャーすることがきらいだったけど、5年になって、みんなの前で話すことが多くなったら、自然と好きになっていて、みんなの表情や、ジェスチャーを見るのが楽しいから、むずかしかったことは、発音です。いろんな英語も出て来て、覚えたりするのも、むずかしかった。

むずかしかったことは、ジェスチャーを考えることです。4年生のころは、あまりつかえていないまま5年になったので、おぼえたり考えたりはむずかしかったです。

(3) 考察 (「○」:成果、「●」:課題、「・」:理由や改善策)

○Small Talk を取り入れ活動してきたことにより、ジェスチャーなどを用いて英語で自分の思いを伝えられるようになり、友だちと会話を楽しむことができるようになった。

- ・「英語を話しやすい教室環境になったこと」
- ・「先生たちが楽しそうだから、自分達も使ってみようと思えたこと」
- ・「ジェスチャーなどをすれば、言いたいことを伝えられるという喜びを味わえたこと」などを児童が感じられたからであろう。

○英語に関しては全く自信がなく、英語で会話をするにかなりの抵抗感を抱いていたが「英語が得意でなくても、使い続けることが大切である」と、強く感じた。

- ・単元のゴールを意識して、児童が興味を持てる題材を Small Talk のテーマにすることで、児童も楽しく活動できる。
- ・教師も児童と楽しみながら活動ができ、会話のモデルとなれたことを感じ、教師自身も自信を持つことができた。

●「発表で失敗すると嫌だ」という児童の中には、「ジェスチャーなど覚えることが多くなり、大変」という児童が見られた。

- ・中学年で、対話を続けるための基本的な表現やコミュニケーションのポイントに慣れ親しんでいないため、5年生で身に付けることが多くなりすぎ、負担に感じたのだろう。
- ・3・4年生でもコミュニケーションのポイントを意識して会話をする機会を増やせば、5・6年生で、さらに楽しく英語でのコミュニケーションに取り組めると考える。

●6年生では、「子ども 対 子ども」の Small Talk が行われる。しかしながら、5年生でいきなり行ってしまうとハードルが高くなりすぎ、負担を感じる児童もいると思われる。

- ・5年生の段階では既習表現の定着と共に、対話を続けるための基本的な表現にも触れる機会を増やし、「自分の思いを伝えること」を楽しめるようにさせたいと考える。

VI 成果と課題

1 成果

- 第1時において単元のゴールを示して、児童が見通しをもって学習できるようにし、ゴールで使用する表現を **Small Talk** に少しずつ取り入れた。**Small Talk** では、担任と ALT がまず会話を行い、それを児童に聞き取らせたり、その会話に児童を参加させたりして、児童が繰り返し単元のゴールで使用する表現に触れるようにした。繰り返し聞いたり発話したりするうちに、発話への不安な気持ちが少なくなり、単元のゴールにおいて、児童が自信をもって発表する姿が多く見られるようになった。
- Small Talk** では、まず担任と ALT が既習表現を使用した身近な話題についての簡単な会話を聞き取らせた。その際、イラストや写真などの視覚資料を提示したりジェスチャーをつけたりして会話の場面、状況を児童がとらえられるように工夫した。**Small Talk** の感想に「ジェスチャーがあって分かりやすい。」など 90%以上の児童が聞いて内容が分かるとアンケートに答えた。また、「自分もジェスチャーをつけたい。」「アイコンタクトがしっかりできた。」「笑顔でできた。」「大きい声で話せた。」などの感想から、コミュニケーションのポイント“Eye contact” “Smile” “Gesture” “Reaction” “Clear voice”を示し意識させたことにより、コミュニケーションを積極的に図る児童を育てたといえる。
- 「友達の欲しいものが分かった。」「友達のできることが知れた。」「値段のことがしっかり言えた。」「友達に coolと言われて嬉しかった。」という感想から **Small Talk** において、英語を使用して相手のことが分かったり自分の思いが相手に伝わったりするコミュニケーションの楽しさを感じさせることができた。さらに「また、がんばりたい。」「もっとジェスチャーを付けたい。」などの感想から、自分の思いを英語で伝え合う **Small Talk** を繰り返すことにより、学習への意欲を高められたことが分かる。
- 対話を続けるための基本的な表現“Hello.” “That’s good.” “Me too.”などを担任や ALT が **Small Talk** で繰り返し使用したり、教室に掲示したりした。やり取りの中で継続的に、児童に使用させたことにより、相手の話したことに何らかの反応を示すことを自然に行い、対話を続ける姿が多く見られるようになった。ある話題について、担任や ALT が自分自身の実際のことを話したり、児童に問いかけたりして、楽しみながら対話を続けられるように工夫した **Small Talk** は有効であったといえる。

2 課題

- Small Talk** を構成する場合、どのようなコミュニケーションの場を設定し、どの既習表現を扱うのか決定することに時間がかかった。児童の既習表現・未習表現を含め、児童の実態や発達段階に応じて、ALT と相談しながら児童が伝えたいと思える **Small Talk** を構成する必要がある。さらに自分の思いを伝え合う **Small Talk** を行うためには、Activity においても自分の思いを言えるような言語活動にしていく必要がある。
- Small Talk** では、その場でどのような会話のやり取りになるか分からないので、児童とのやり取りを続けるために、教師も対話を続けるための基本的な表現を身に付けておくことが必要である。「IV 研究の内容と方法」に示した「対話を続けるための基本的な表現」を教師も繰り返し使用し、英語でコミュニケーションができるという楽しさを感じることも大切である。教師自ら英語でのコミュニケーションを楽しんでいる姿を見せることによって、児童も楽しい雰囲気の中で自分の思いを隠すことなく、英語で表現できると考える。
- 児童の既習表現が限られているので、会話を広げたり、続けたりすることに難しさがあるが、さらに質問できる表現“How about you?” “What ~ do you like?” “Why do you like it?”などを段階的に加えて、聞かれたことに対して既習表現を想起しながら **Small Talk** で自分の思いを伝え合うことが、コミュニケーションの本当の楽しさを味わうことにつながる。

- 単元ごとに Small Talk を構成するが、新出の表現についてその単元のみで使えるようにしようと思わず、前に学んだ表現を児童自ら想起し、繰り返し使用できるコミュニケーションの場を保障することにより、基本的な英語表現の定着を図っていくことが必要である。

〈参考文献〉

- 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（平成 29 年 7 月 文科省）
- 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 実習編』（平成 29 年 文科省）
- 『資料 2～6 学習指導案例・年間指導計画例等』 文部科学省 www.mext.go.jp
- 『自分の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業
—使いながら身に付ける英語教育の実現—』 日本標準 山田誠志 編著

〈5年生の単元における Small Talk 集〉

○単元名 She can run fast. He can jump high. できること 事例①

※斜字体は会話をつなげるための表現

※Small Talk の下線は前時の Main Activity で学んだ表現や単元のゴールで使用する表現

時	Small Talk	Main Activity
1	単元のゴール 先生のできることやできないことについて相手に伝わるように工夫して紹介しよう。	○「できる・できない」の表現を使って動物当てクイズを楽しむ。 A: Hello. B: Hello. A: I can jump. I can't swim. B: (Are you) a kangaroo? A: No, I'm not. I'm a rabbit.
2 本時	Small Talk①先生のできること・できないこと T1: Look! What's this? Ss: A jump rope. T1: Yes, that's right. This is my jump rope. <u>I can jump rope very well.</u> (縄跳びをしながら) I like jump rope. It's so fun. But <u>I can't double dutch.</u> Can you do double dutch? (絵カードを見せながら) T2: No, I can't. But <u>I can play tennis.</u> T1: Oh, so good. Are you a good tennis player? T2: Yes, I am. T1: Me, too. How about you? Can you play tennis? S1: Yes, I can. <u>I can play tennis.</u> T1: You are good. Can you play baseball? S2: Yes, I can. T1: You are good. What position? S2: I'm a pitcher. T1: You are so cool. Can you play baseball? S3: No, I can't. T1: Can you swim? S3: Yes, I can. T1: Can you do the back stroke? S3: Yes, I can. T1: Really? It's so cool. ・隣同士でできることを伝え合わせる。 ・時間があれば、鼓笛の話題を取り上げてやり取りをする。 (T1: We have marching band at Kitasho. Can you play a musical instrument? Can you play the drums?)	○できることやできないことについて友達に尋ねたり答えたりする。 A: Hello. B: Hello. A: Can you (play soccer)? B: Yes, I can./ No, I can't. A: It's O.K. A: Can you cook? B: Yes, I can./ No, I can't. A: Good.

3		<p>○男の人・女の人を表す表現を知り、友達のできることやできないことを紹介する。</p> <p>A: She is Yasuko. (B: <i>O.K.</i>) She can play volleyball. (B: <i>Really?</i>) She can't run fast. (B: <i>O.K.</i>)</p>
4	<p>Small Talk②第三者の料理できる食べ物や自分の料理できる食べ物</p> <p>T1: I like cooking. <u>I can cook karaage.</u> Who is she? (写真を見せながら) She is a cooking expert. <u>She can cook karaage very well. She can curry and rice.</u> It's very delicious. <i>How about you?</i> What food can you cook? (ジェスチャーをつけて)</p> <p>T2: <u>I can cook pizza.</u> It's very delicious. T1: <i>It's so good.</i> What food can you cook? S1: <u>I can cook sarada.</u> (Ss: <i>Me, too.</i>) T1: <i>It's so good.</i> What food can you cook? S2: <u>I can cook hotcake.</u> (Ss: <i>Really?</i>) T1: <i>Wow!</i> What food can you cook? S3: <u>I can cook scrambled eggs.</u> (Ss: <i>Me, too.</i>) T1: <i>Good.</i></p>	<p>○単元のゴール 先生のできることやできないことについて、相手に伝わるように工夫して紹介しよう。</p> <p>S1/S2: <i>Hello.</i> Ss: <i>Hello.</i> S1: He is Mr. Abe. He can play table tennis. (Ss: <i>Really?</i>) S2: He can sing well. (Ss: <i>Me too.</i>) He can't do judo. (Ss: <i>It's O.K.</i>) S1: I can play baseball. (Ss: <i>Good.</i>) I can't ski. (Ss: <i>It's O.K.</i>) S2: I can cook. I can't do judo. S1/S2: <i>Thank you.</i> Ss: <i>Thank you.</i></p>

○単元名 She can run fast. He can jump high. できること事例②

時	Small Talk	Main Activity
1	<p>単元のゴール 先生や友だちのできることやできないことについて紹介しよう。</p> <p>T1: What's this? Ss: It's a glove. T1: That's right! I like baseball. What sport do you like? T2: I like ice hockey. T1: <i>It's cool!</i> (児童に) What sport do you like? S1: I like soccer. T1: <i>That's good!</i> ※この流れを何度か続ける</p>	<p>できること自慢</p> <p>T1: I can play kendama. (やってみせる). I can't whistle. (口笛をふけない様子を見せる) T2: I can snowboard. (写真などを見せる) I can't ski. (ジェスチャーしながら)</p>

2	<p>T1: Hello! <u>I can cook medamayaki. But I can't cook pizza.</u> What food can you cook?</p> <p>T2: <u>I can cook curry and rice.</u> But I can't cook burinoteriyaki.</p> <p>T1: <u>Oh! Me, too! I can cook curry and rice.</u></p> <p>T2: What food can you cook?</p> <p>S1: <u>I can cook ~.</u></p> <p>T1: <i>Nice! You can cook ~.</i>○○さん、stand up .</p> <p>Ss: (みんなで聞くように促し)What can you cook?</p> <p>S3: I can cook~.</p> <p>Ss: <i>Me, too.</i> (この流れをくり返す)</p>	<p>T1: I can play baseball. Can you play baseball?</p> <p>T2: Yes, I can.</p> <p>T1: <i>That's good!</i></p> <p>T2: I can play the guitar. Can you play the guitar?</p> <p>T1: No, I can't.</p> <p>T2: <i>It's ok!</i></p>
3	<p>T1: Hello! I can play baseball. (ジェスチャーしながら)Can you play baseball?</p> <p>T2: <u>Yes, I can.</u></p> <p>T1: <i>Oh! That's good!</i></p> <p>T2: I can play ice hockey. <u>Can you play ice hockey?</u></p> <p>T1: <u>No, I can't. Can you play ice hockey?</u></p> <p>S1: <u>No, I can't.</u></p> <p>T2: <i>I see. It's ok!</i> What can you play ?</p> <p>S2: I can play soccer.</p> <p>T2: <i>That's good! You can play soccer.</i> <u>Can you play soccer?</u></p> <p>S3: <u>Yes, I can.</u></p> <p>T1: <i>Oh! You, too!</i> <u>Can you play soccer?</u></p> <p>S4: <u>No, I can't.</u></p> <p>T1: <i>Oh. It's ok!</i> <u>Can you play badminton?</u></p> <p>S5: <u>Yes, I can.</u></p> <p>T1: <u>Can you play the guitar?</u></p> <p>S6: <u>No, I can't.</u></p> <p>T1: ○○さん、stand up, please.</p> <p>Ss: (みんなで)Can you play the trumpet?</p> <p>S10: <u>Yes, I can.</u></p> <p>T1: ○○さん、thank you. Sit down please. Next, □□さん、stand up please. (この流れを何度か続ける)</p>	<p>T1: He is ケリー先生. <u>He can play ice hockey.</u> And <u>he can play the guitar.</u></p> <p>T2: He is いしだ先生. <u>He can play baseball.</u> And <u>he can jump high.</u></p> <p>T1: (教頭先生の写真を見せながら・・・) This is・・・?</p> <p>Ss: 教頭先生!</p> <p>T1: <i>Yes! That's right!</i> (写真を指さしながら) <u>He can play baseball.</u> (野球やっている子に立ってもらって) <u>He can play baseball.</u> <u>She can play baseball.</u></p> <p>T1: (写真を出しながら)Next is ...?</p> <p>Ss: 深代先生!</p> <p>T1: <i>That's right!</i> (ラクロスの写真を見せながら) What's this?</p> <p>Ss: ラクロス??</p> <p>T1: Yes! Do you know ラクロス? (写真を指しながら) <u>She can play ラクロス.</u> Can you play ラクロス?</p> <p>S: No!!</p> <p>T1: <i>Me too! It's ok!</i></p>

4	<p>T1: (有名選手の写真を出しながら) <u>He is ~. He can~.</u> <u>She is ~. She can~.</u> 有名選手を何人かやった後、 T1: ケリー先生. Gesture, please. (ジェスチャーを見て) <u>He can ~.</u> T2: 石田先生. Gesture, please. (ジェスチャーを見て) <u>He can ~.</u> (児童にもジェスチャーをさせ、何度かくり返す)</p>	<p>T1: This is 校長先生. He can ~. He can ~. He can't ~. Thank you. T2: This is my sister. She can ~. She can ~. She can't~. Thank you.</p>
5	なし	インタビューしたことをもとに、友だちや先生の紹介をする。

○単元名 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう

時	Small Talk	Main Activity
	単元のゴール アルファベットで文字遊びをしよう (自己紹介をしよう)	
1	<p>Small Talk① 好きなフルーツをたずねる・答える T1: Hello. My name is Masaki Tomomatsu. I like fruits. I like watermelons. And I like strawberries. I like watermelons and strawberries. (絵カードを見せながら) Do you like fruits ? T2: Yes, I do. T1: <u>What fruits do you like ?</u> T2: I like bananas. T1: Oh, <i>that's nice.</i> What fruits do you like ?</p>	<p>○身の周りのアルファベットをさがす。 教室にあるものや身に付けている物の中からアルファベットを探し、黒板に書いていく。書いたものを What's this ? と言いながら確かめていく。</p>

2	<p>Small Talk②</p> <p>兄弟姉妹が何人いるか・何人いるか</p> <p>T1: Hello. My name is Masaki Tomomatsu I have two sisters. Do you have sisters ?</p> <p>T2: Yes, I do.</p> <p>T1: <u>How many sisters do you have ?</u></p> <p>T2: I have one sister.</p> <p>T1: <i>You have one sister.</i> (繰り返し) Do you have sisters ?</p> <p>S1: No, I don't.</p> <p>T1: <i>You have no sisters.</i> Do you have brothers ?</p> <p>S1: Yes, I do.</p> <p>T1: <u>How many brothers do you have ?</u></p> <p>S1: I have two brothers.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時で扱う have および How many の記憶を喚起する意図を持って設定した。 ・以後、5名ほどの児童とやり取りをする。 	<p>○アルファベットカードを使って、もっているかどうか尋ねるゲームをする。</p> <p>A: Do you have 'a' ?</p> <p>B: Yes, I do.</p> <p>A: Here you are.</p> <p>B: Thank you.</p> <p>A: Do you have 'b' ?</p> <p>B: No, sorry! I have 'c', 'd', 'e'.</p>
3 本 時	<p>Small Talk③誕生日を尋ね、欲しいものを聞く。</p> <p>T1: My birthday is in May. (月名カードを示す) I want a new bike. <u>When is your birthday?</u></p> <p>T2: My birthday is in January.</p> <p>T1: <u>When is your birthday?</u> (月名カードを示しながら)</p> <p>S1: My birthday is in April.</p> <p>T1: <i>Me, too?</i> (手を挙げるジェスチャーをしながら児童に反応を促す)</p> <p>Ss: <i>Me, too.</i></p> <p>T1: <u>When is your birthday?</u></p> <p>S2: My birthday is in November.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の負担感を減らすため、一つの質問を繰り返し5名ほどの児童に尋ねる。 <p>T1: My birthday is in May. I want a bike. <u>What present do you want ?</u></p> <p>T2: I want a PC.</p> <p>T1: <i>That's nice!</i></p> <p>T1: <u>What present do you want ?</u></p> <p>S1: I want ○○.</p>	<p>○自分の名前の綴りにあるアルファベットを尋ね合う。</p> <p>A: Hello.</p> <p>B: Hello.</p> <p>A: Do you have 'p' ?</p> <p>B: No, sorry. Do you have 'm' ?</p> <p>A: Yes, I do.</p> <p>B: How many 'm's do you have?</p> <p>A: I have three 'm's.</p> <p>B: Oh, you have three 'm's.</p> <p>A: Thank you.</p> <p>B: Thank you. Bye.</p>

4	○単元のゴール アルファベットで文字遊びをしよう
	○次の単元のゴール 自己紹介をしよう

○単元名 What would you like? 食べ物、料理

時	Small Talk	Main Activity
1	ほしい飲み物を気楽に言おう。 T1: Are you thirsty? T2: Yes. T1: (数個のペットボトルをみせながら) What do you want? T2: I want orange juice. T1: <i>O.K.</i> (児童に) What do you want? S: I want melon soda. S: <i>Me, too. / Really?</i>	【場面】 ハロウィーンパーティーで、丁寧にほしい飲み物やピザを尋ねたり、答えたりしよう。 A: What would you like? B: I would like seafood pizza and green tea. A: <i>O.K. Here you are.</i> B: <i>Thank you.</i>

2	<p>ほしい飲み物やピザを丁寧に注文しよう。</p> <p>T1: Are you thirsty?</p> <p>T2: Yes. (メニューを見せながら)</p> <p>T1: <u>What would you like?</u></p> <p>T2: <u>I would like</u> tea.</p> <p>T1: <i>Me, too.</i> (児童も同じ意見なら <i>Me, too.</i> を言うように促す)</p> <p><u>What would you like?</u></p> <p>S1: <u>I would like</u> apple juice.</p> <p>T1: Are you hungry?</p> <p>T2: Yes.</p> <p>T1: (メニューを見せながら)</p> <p><u>What would you like?</u></p> <p>T2: <u>I would like</u> seafood pizza. I like octopus.</p> <p>T1: <i>Me, too.</i> (Raise your hands.と同じ答えの児童に挙手させる)</p> <p>T1: <u>What would you like?</u></p> <p>S2: <u>I would like</u> sausage pizza.</p> <p>Ss: <i>Me, too./Really?</i> (児童が反応できるとよい)</p> <p>T1: Do you like sausage?</p> <p>S3: Yes, I do</p>	<p>【場面】上野動物園のレストランで店員として丁寧に注文をとったり値段を伝えたりし、客として丁寧に注文したり値段をたずねたりしよう。</p> <p>A: <i>Hello.</i></p> <p>B: <i>Hello.</i></p> <p>A: What would do you like?</p> <p>B: I would like オムハヤシライス and ホットココア.</p> <p>A: <i>O.K.</i></p> <p>B: How much?</p> <p>A: It's 1,060 yen.</p> <p>B: <i>Here you are.</i></p> <p>B: <i>Thank you. Bye.</i></p>
---	---	---

3	<p>今度、上野動物園に行ったらレストランで注文したいものの値段</p> <p>T1: (パワーポイントを用いて)</p> <p>We went Ueno zoo on... 紙に書いた日付を見せて</p> <p>Ss: September 27th.</p> <p>T1: <i>Good.</i> Do you like animals?</p> <p>T2: Yes, I do. I like ハリネズミ.</p> <p>T1: <i>Really?</i></p> <p>T1: Do you like animals?</p> <p>Ss: Yes, I do. (指名しなくても児童から答えが返ってくるとよい)</p> <p>T1: (生徒が撮った動物の写真を見せながら)</p> <p>What is this?</p> <p>Ss: Penguins.</p> <p>T1: I like penguins. Do you like penguins?</p> <p>S1: Yes, I do.</p> <p>S: <i>Me, too.</i> (児童が反応できるとよい) <i>Cute.</i></p> <p>T1: Do you like gorillas?</p> <p>S2: Yes, I do.</p> <p>Ss: <i>Really?</i> (児童が反応できるとよい)</p> <p>What's this?</p> <p>Ss: サイ</p> <p>T2: (難しいので ALT が Rhinoceroses.)</p> <p>Do you like rhinoceroses?</p> <p>T1 : (レストランの写真を出して)</p> <p>We had lunch in the restaurant. (食べ物をさして) What is this?</p> <p>Ss: Udon.</p> <p>T1: <i>Good?</i></p> <p>Ss: <i>Good.</i></p> <p>T1: You can't look at シャンシャン. Please go to 上野動物園 with your family again. If you go the restaurant, <u>what would do you like?</u></p> <p>S3: <u>I would like</u> udon and soft cream.</p> <p>T1: <u>How much?</u></p> <p>S3: <u>It's 1400 yen.</u></p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○単元のコール</p> <p>上野動物園のレストランで家族の好みを考えて丁寧に注文したり値段をたずねたりしよう。</p> </div> <p>A: <i>Hello.</i></p> <p>B: <i>Hello.</i></p> <p>A: What would do you like?—</p> <p>B: I would like キッズカレーランチ and ソフトクリーム.</p> <p>This is for my little sister.</p> <p>A: <i>O.K.</i></p> <p>B: How much?</p> <p>A: It's 980 yen.</p> <p>B: <i>Here you are.</i></p> <p>B: <i>Thank you. Bye.</i></p>
4	なし	第3時の Activity と同様